

第 2 章

子どもや子育て家庭の状況

1 人口、世帯、就業等の状況

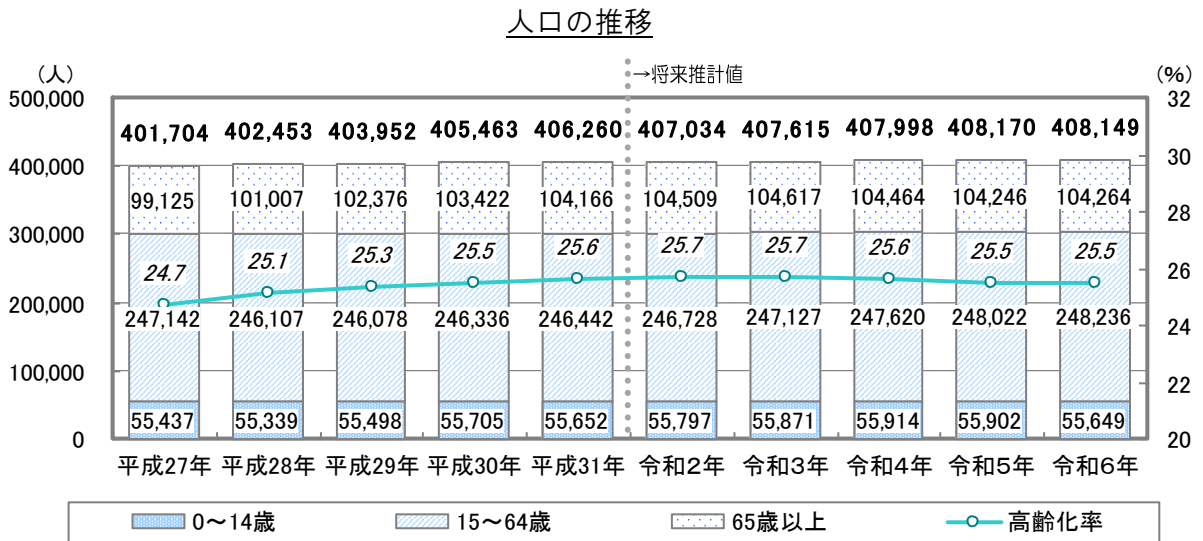
本市の人口動態は、全国平均と比べると0～14歳人口割合が多いものの、全国と同様に人口減少、少子高齢化の傾向となっています。

(1) 人口について

近年、本市の総人口は増加傾向にあり、平成31年(2019年)は平成27年(2015年)に比べ4,556人増加しています。65歳以上人口の割合が高くなっている一方、0～14歳人口及び15～64歳人口は横ばい傾向となっています。

また、本計画の策定にあたり、令和2年度(2020年度)から令和6年度(2024年度)の5年間の計画期間における人口推計を行いました。

推計では、令和6年(2024年)まで引き続き総人口が増加傾向となることが予測され、年齢別にみると、0～14歳人口は増加の後減少傾向、15～64歳人口は増加傾向、65歳以上人口は増加の後減少傾向になることが予測されます。



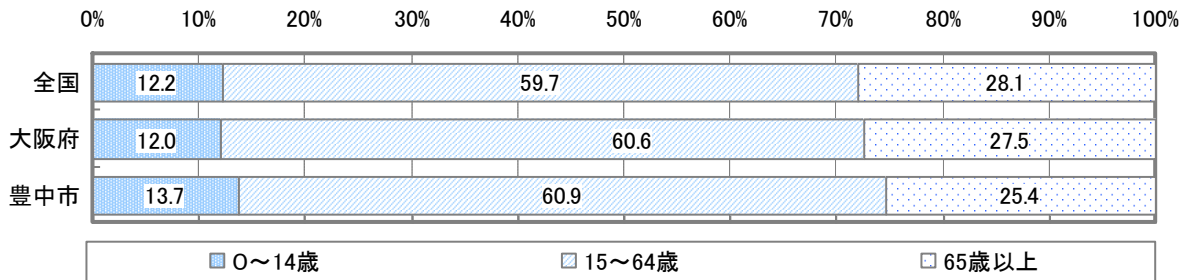
資料：住民基本台帳（各年4月1日現在）

※推計方法：コーホート変化率法*（住民基本台帳の平成26年(2014年)～平成31年(2019年)の人口移動率を乗算した推計方法。



本市の年齢3区分別人口割合について、全国及び大阪府と比較すると、0～14歳人口割合が高く、65歳以上人口割合が低くなっています。

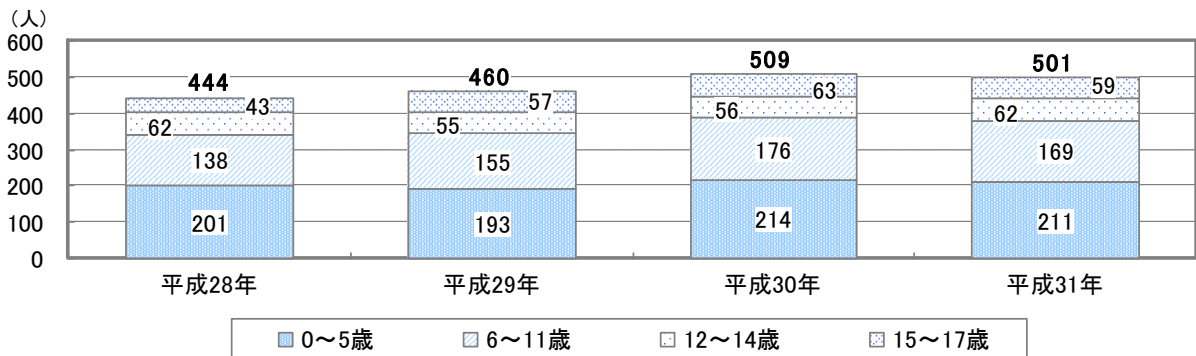
年齢3区分別人口割合の比較



資料：国勢調査（平成27年(2015年)）

18歳未満の外国人人口の状況を見ると、就学前児童の0～5歳が200人前後、小学生に相当する6～11歳が170人前後で推移しています。

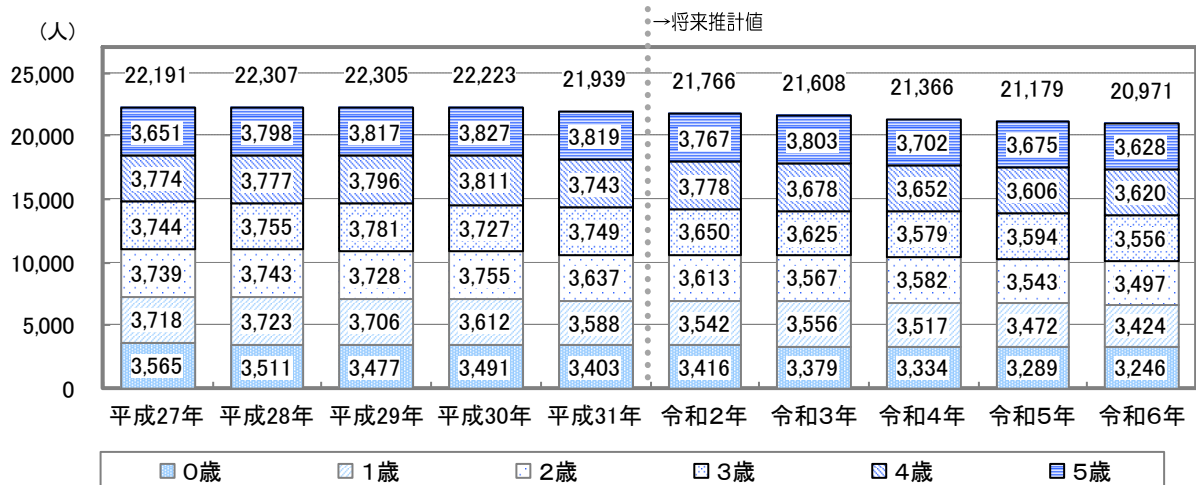
18歳未満の外国人人口の推移



資料：住民基本台帳（各年4月1日現在）

就学前児童（0～5歳）は平成28年(2016年)をピークに減少しはじめ、平成27年(2015年)から平成31年(2019年)にかけて252人減少しています。また、令和6年度(2024年度)までの人口推計においても、減少傾向となることが予測されます。

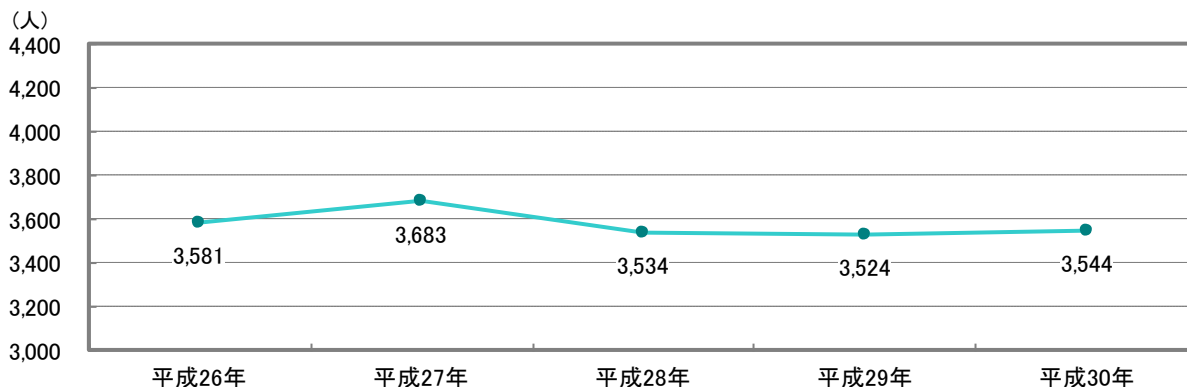
年齢別就学前児童数の推移



資料：住民基本台帳（各年4月1日現在）

出生数は、平成26年(2014年)から平成30年(2018年)の5か年では、平成27年(2015年)をピークに減少しましたが、平成28年(2016年)以降横ばい傾向となっています。

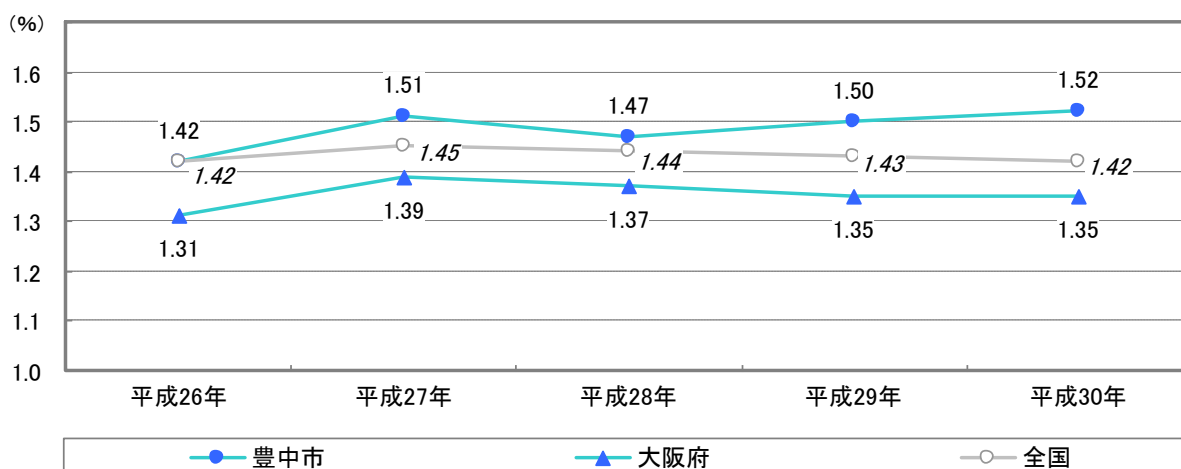
出生数の推移



資料：豊中市統計書

合計特殊出生率[★]は、平成27年(2015年)から平成28年(2016年)にかけて減少しましたが、その後は微増傾向となっています。

合計特殊出生率の比較



資料：住民基本台帳及び政府統計

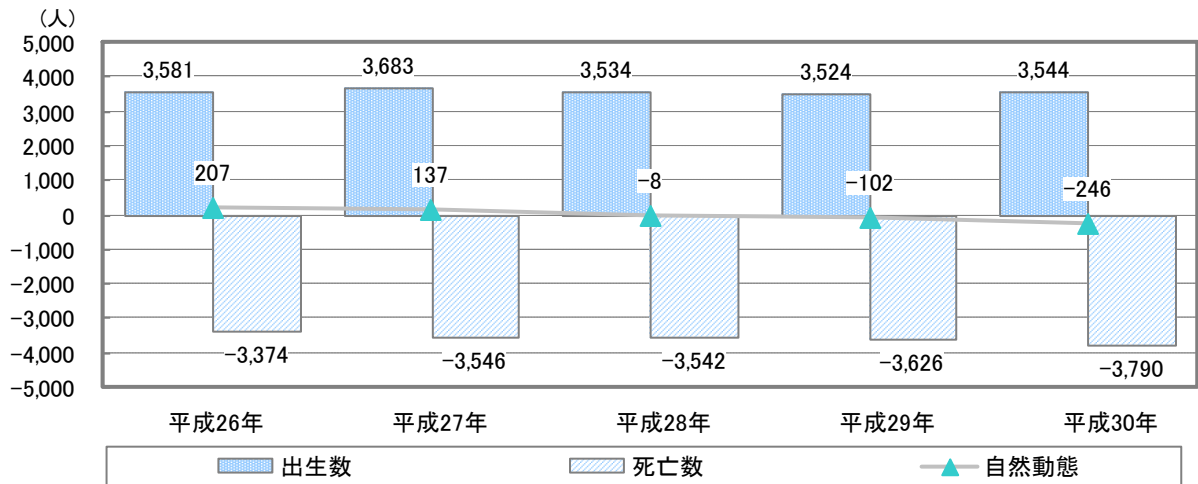
※大阪府、全国の合計特殊出生率は人口動態統計による。本市の合計特殊出生率は、住民基本台帳及び政府統計をもとに独自に算出したもの。

※出生率算出に用いる女性人口について：豊中市は、平成26年(2014年)までは外国人住民を含む女性人口を用いていたが、平成27年(2015年)以降は大阪府・全国の算出方法にあわせるため、外国人住民を除く日本人の女性人口を用いている。



自然動態（出生数から死亡数を減じた数）では、平成28年(2016年)以降死亡数が出生数を上回り、人口減少の要因となっています。

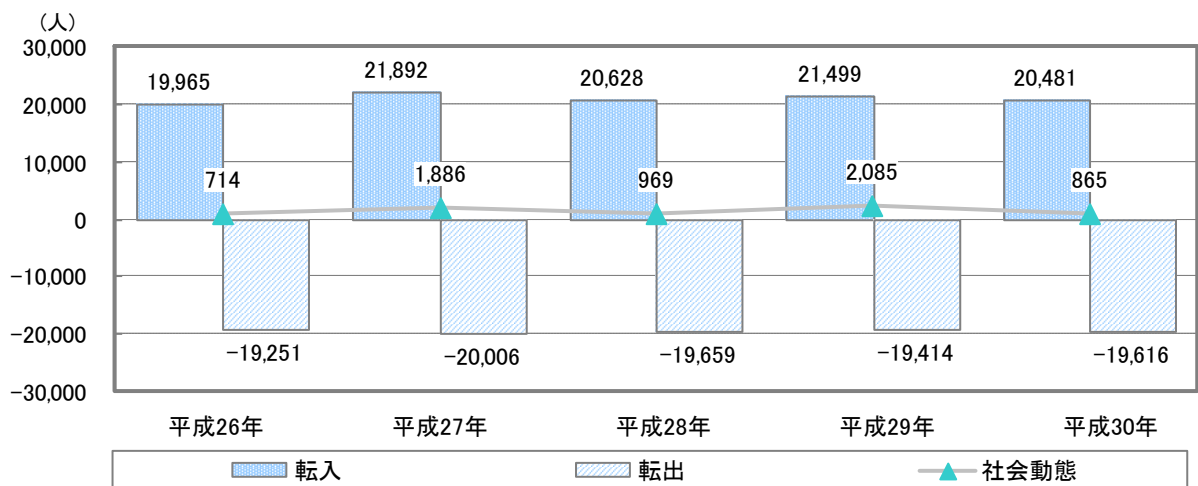
自然動態



資料：豊中市統計書

社会動態（転入数から転出数を減じた数）では、平成26年(2014年)以降転入数が転出数を上回ったまま概ね横ばいで推移しています。

社会動態



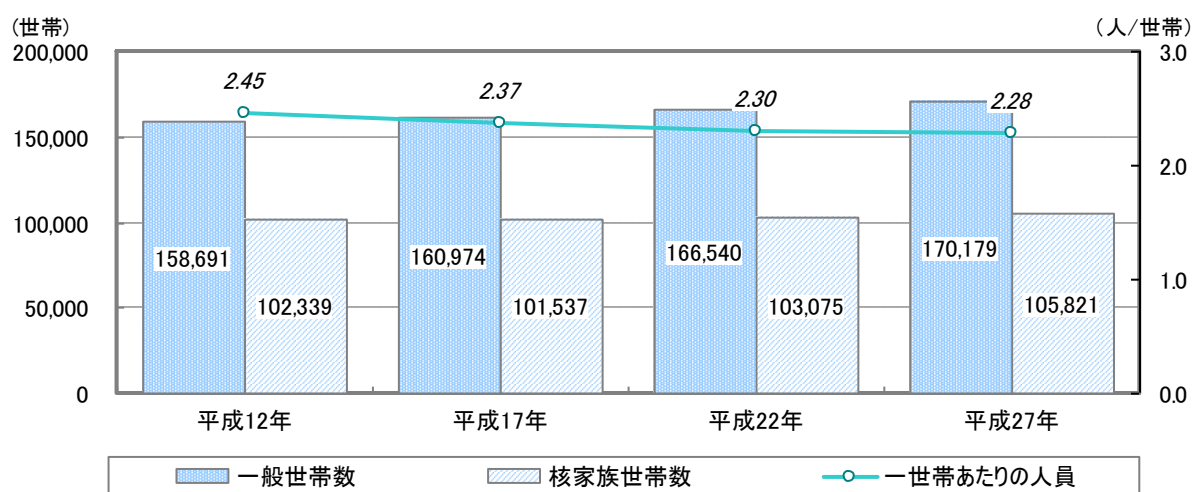
資料：豊中市統計書

子どものいる世帯の減少に歯止めはかかりましたが、全体的に核家族化が進んでいます。

(2) 世帯について

世帯数の増加とともに核家族世帯数が増加し、一世帯あたりの人員は減少傾向となっています。

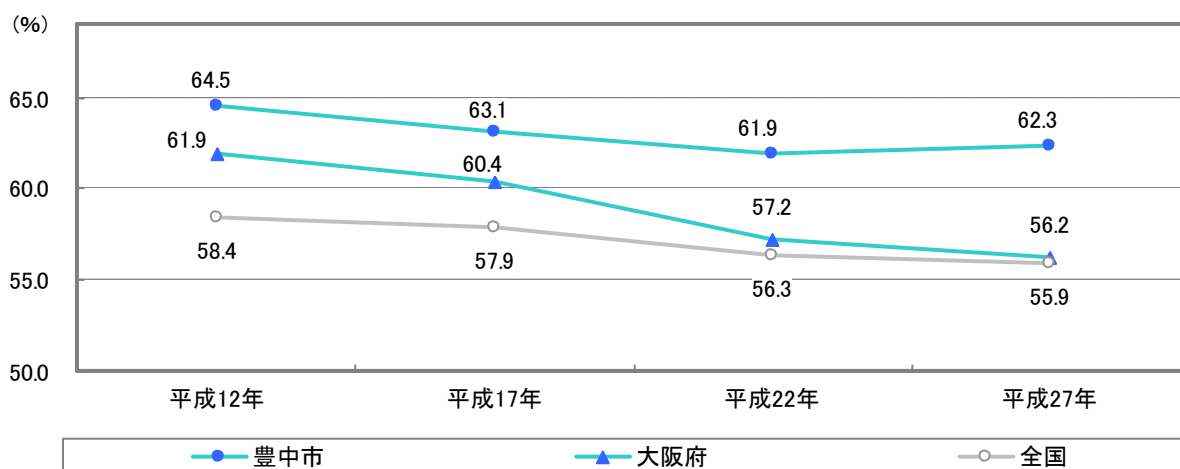
一般世帯数、核家族世帯数及び一世帯あたりの人員の推移



資料：国勢調査

一般世帯に占める核家族世帯の割合は平成22年(2010年)まで減少傾向となっていますが、平成27年(2015年)には増加に転じています。

一般世帯に占める核家族世帯の割合



資料：国勢調査



子どものいる世帯数割合の推移では、6歳未満の子どものいる世帯、18歳未満の子どものいる世帯ともに平成12年(2000年)から平成22年(2010年)まで減少傾向となっていますが、平成27年(2015年)にはわずかに増加しています。また、6歳未満の子どものいる世帯及び18歳未満の子どものいる世帯の約9割が核家族世帯となっています。

子どものいる世帯数及び世帯割合の推移

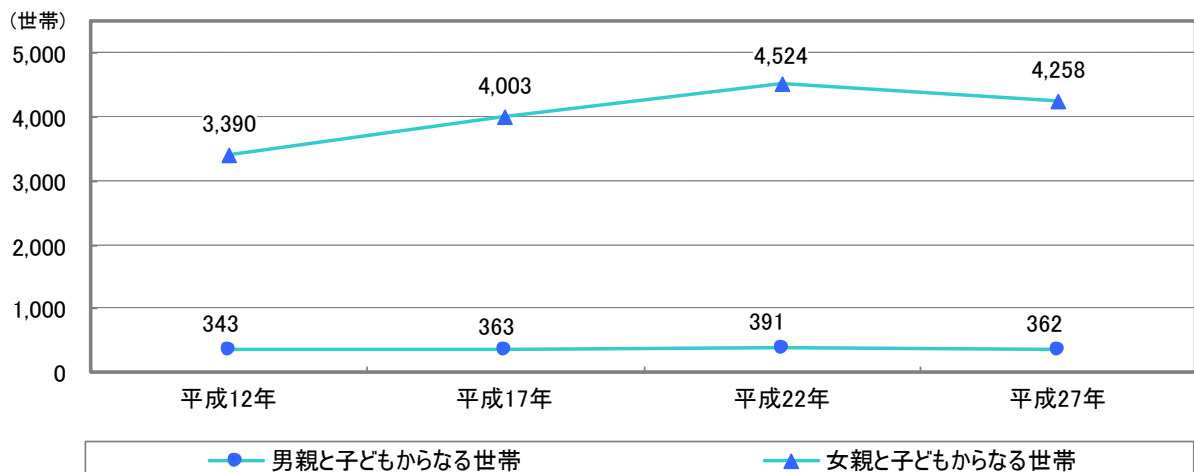
単位：＜実数＞人 ＜構成比＞%

	平成12年		平成17年		平成22年		平成27年	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
一般世帯数	158,691	100.0	160,974	100.0	166,540	100.0	170,179	100.0
6歳未満の子どものいる世帯	17,341	10.9	16,437	10.2	16,137	9.7	16,661	9.8
核家族世帯	16,328	10.3	15,448	9.6	15,349	9.2	15,910	9.3
その他の親族世帯	1,013	0.6	989	0.6	759	0.5	718	0.4
非親族・単独世帯	0	0.0	0	0.0	29	0.0	33	0.0
18歳未満の子どものいる世帯	40,459	25.5	38,638	24.0	38,887	23.3	39,858	23.4
核家族世帯	37,003	23.3	35,607	22.1	36,205	21.7	37,413	22.0
その他の親族世帯	3,417	2.2	3,003	1.9	2,516	1.5	2,213	1.3
非親族・単独世帯	39	0.0	28	0.0	166	0.1	232	0.1

資料：国勢調査

母子家庭、父子家庭ともに平成12年(2000年)から平成22年(2010年)まで増加傾向となっていますが、平成27年(2015年)には減少しています。

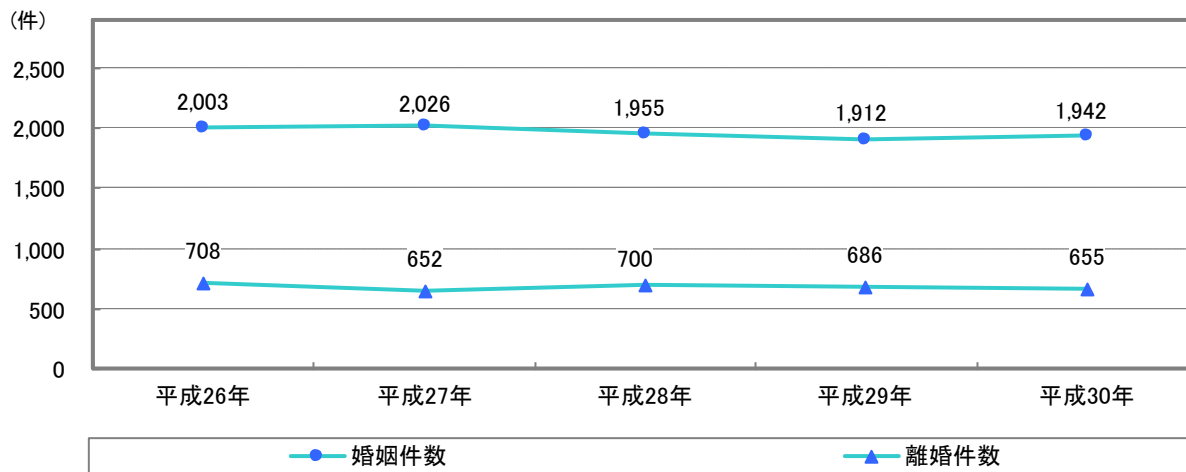
18歳未満の子どもがいる母子家庭、父子家庭の状況



資料：国勢調査

婚姻件数は増減しつつもわずかに減少傾向にあります。離婚件数は700件前後で推移しています。

婚姻件数と離婚件数の推移



資料：豊中市統計書

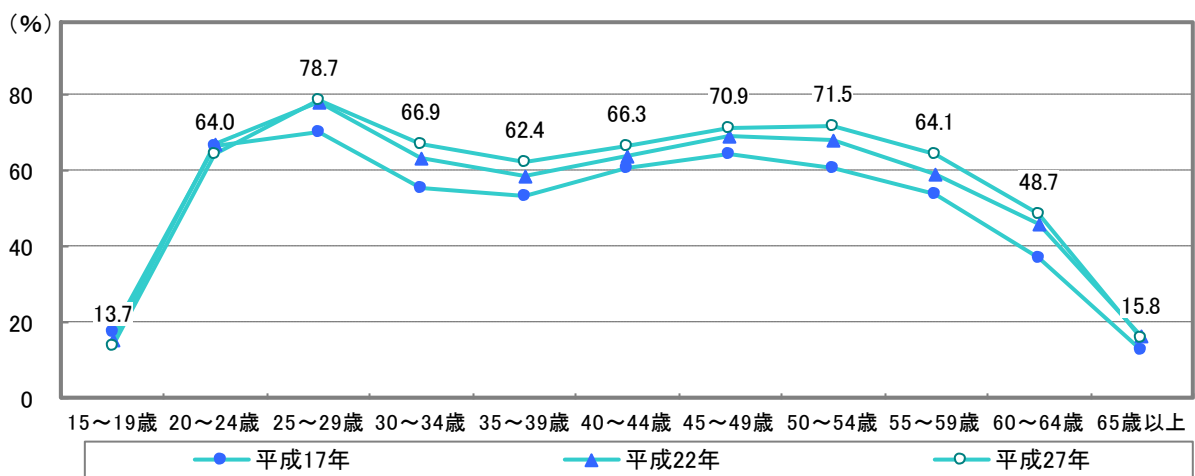


本市の女性の労働力率は、年々増加傾向にあります。全国平均・大阪府平均と比較すると低くなっています。

(3) 就業の状況について

女性の労働力率は25～29歳のピーク以降、35～39歳で底を打った後に上昇に転じるM字曲線を描いています。また、25歳以上の労働力率は年々増加傾向となっています。

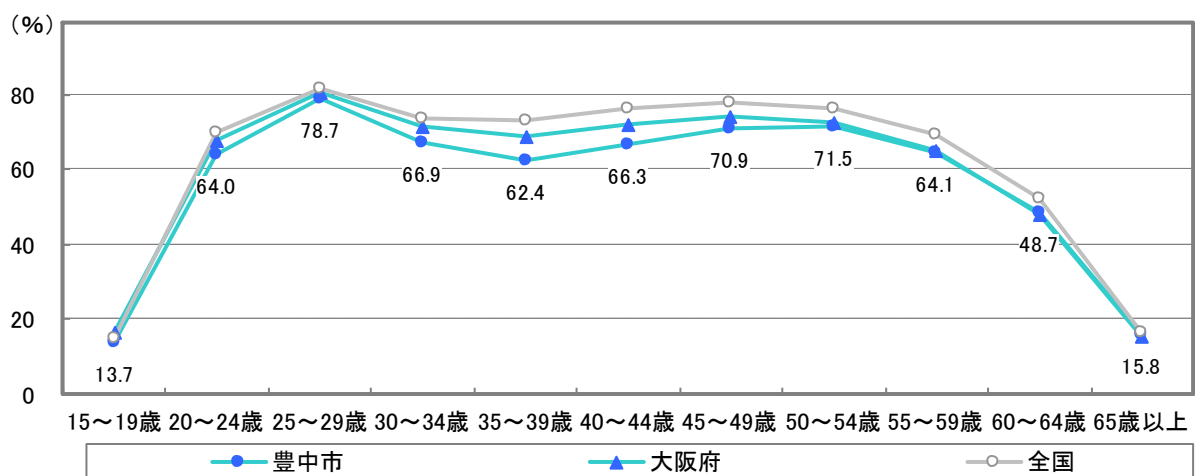
年齢階級別女性の労働力率の推移



資料：国勢調査

本市の女性の労働力率は、大阪府及び全国と比較すると全体的に低い傾向となっており、特に35～39歳で低くなっています。

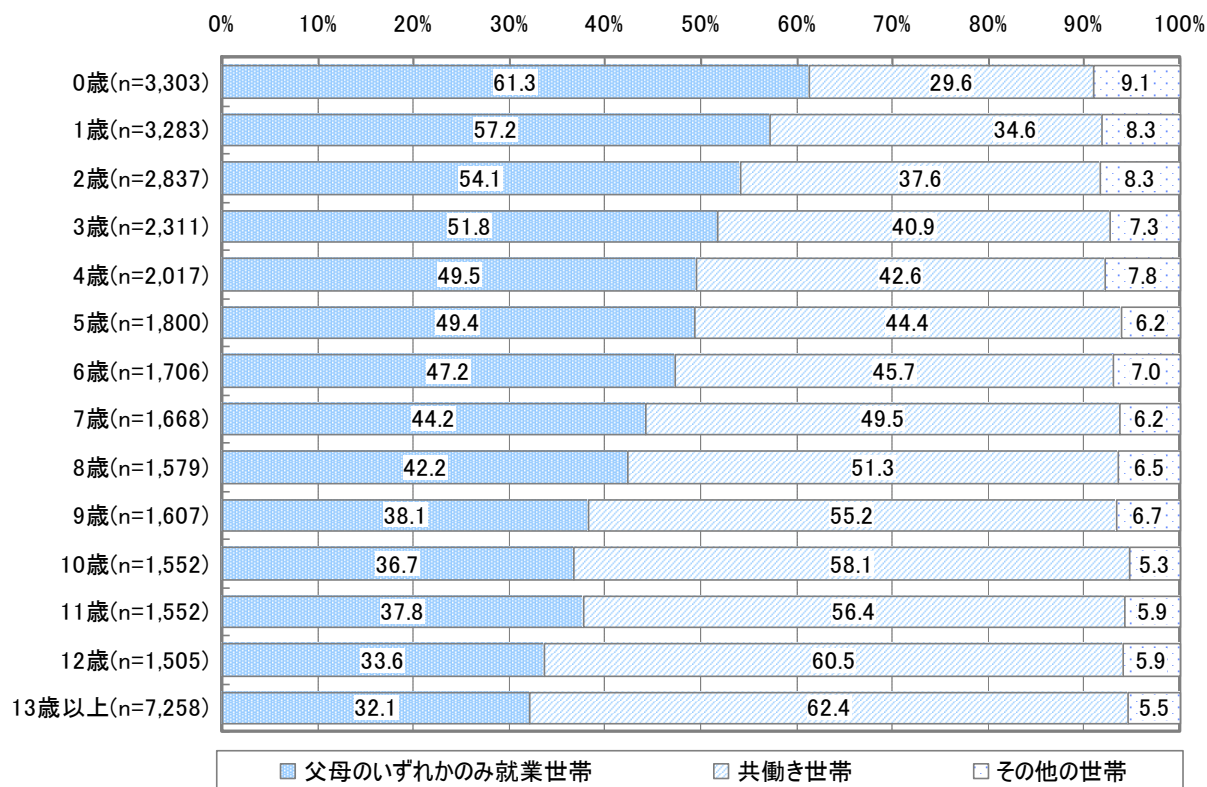
年齢階級別女性の労働力率の比較



資料：国勢調査(平成27年(2015年))

最年少の子どもが18歳未満の世帯のうち、最年少の子どもが6歳以下の世帯では、父母のいずれかのみ就業世帯の割合が高くなっていますが、最年少の子どもが7歳以上の世帯では、共働き世帯の割合が高くなっています。

最年少の子どもの年齢別父母のいずれかのみ就業世帯・共働き世帯の割合



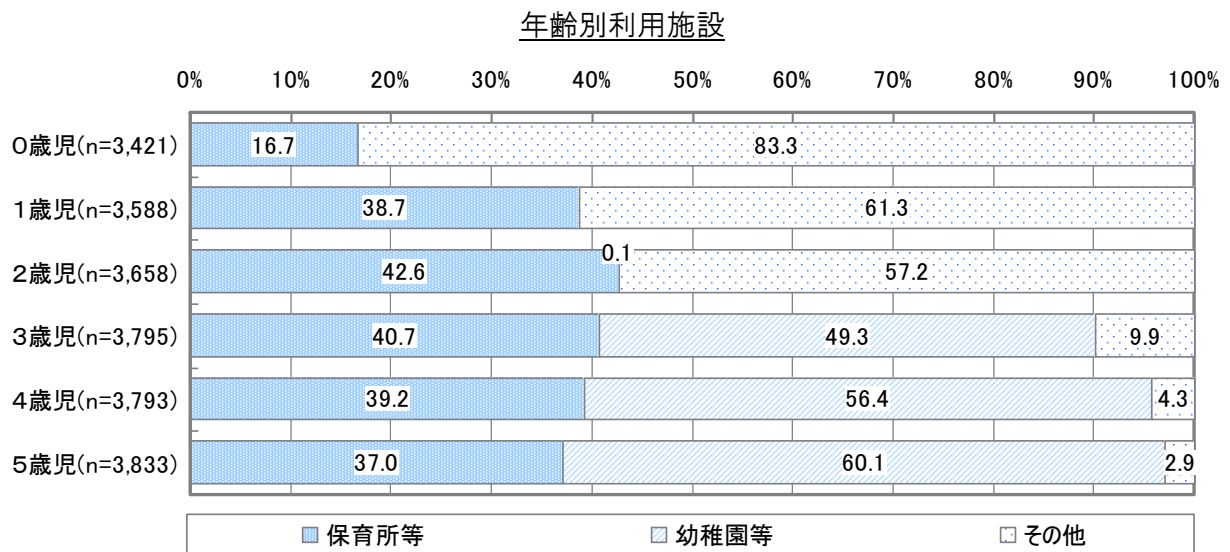
資料：国勢調査(平成27年(2015年))



3歳児以上では、約9割が保育所・幼稚園等を利用しています。

(4) 就学前施設の在籍状況

保育所等を利用している児童の割合は1歳児～5歳児で約40%、幼稚園等を利用している児童の割合は3歳児で約50%、4歳児、5歳児で約60%となっています。



資料：豊中市子育て給付課調べ（令和元年(2019年)5月1日現在）

※保育所等…保育所、認定こども園*、小規模保育事業、事業所内保育事業、家庭保育所、待機児童解消のための緊急一時保育利用枠へ通園している児童（その他の認可外保育施設へ通園している児童は含まず）

幼稚園等…幼稚園、認定こども園へ通園している児童

その他……上記以外の児童。在宅、認可外保育施設、障害児通園施設等へ通園している児童

2 子育て・子育てに関する市民の意識

子ども自身、子育て中の保護者の意識を反映した計画となるように、策定に向けて調査を行いました。

平成30年(2018年)11月に実施した「豊中市子育て・子育て支援に関するニーズ等調査」から、保護者(就学前児童及び小学生の保護者)の子育てに関する意識や、子ども本人(小学校5年生、中学2年生、高校2年生相当年齢の方)の意識や生活状況等について示します。

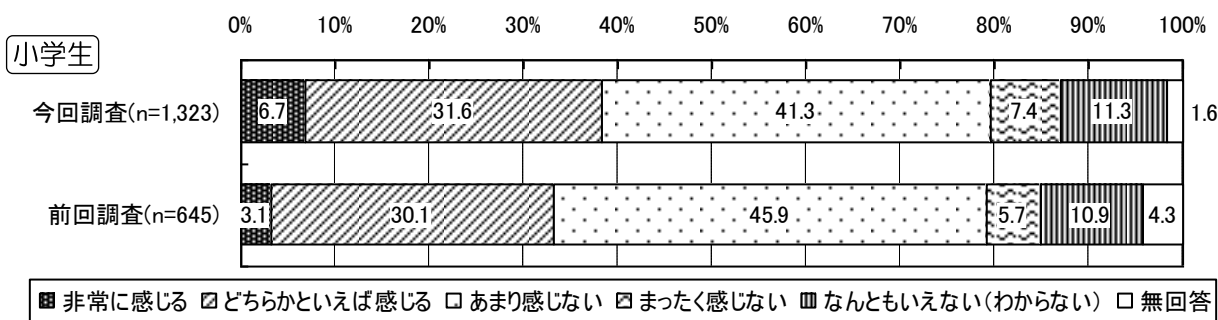
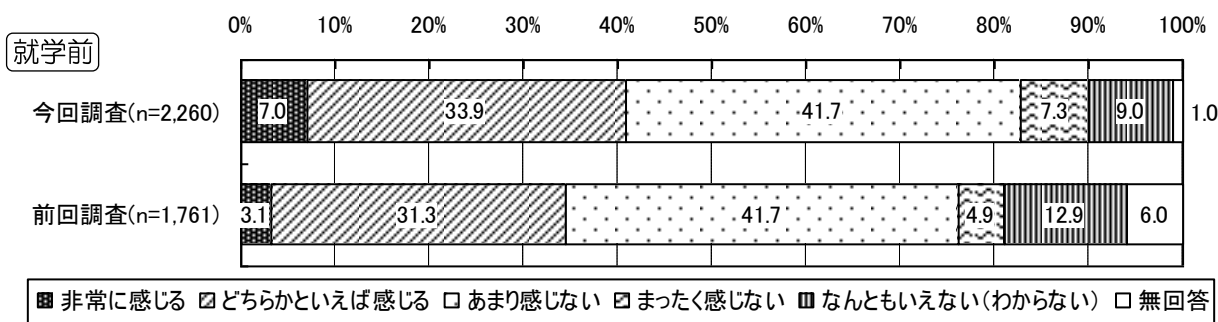
(1) 保護者の子育てに関する意識や状況

① 子育ての不安や負担について

子育てへの不安や負担

■不安や負担を感じる人が増加

- 就学前児童・小学生ともに「非常に感じる」が前回調査から増加しています。
- 保護者の約40%が子育てへの不安や負担を感じるとう回答しています。

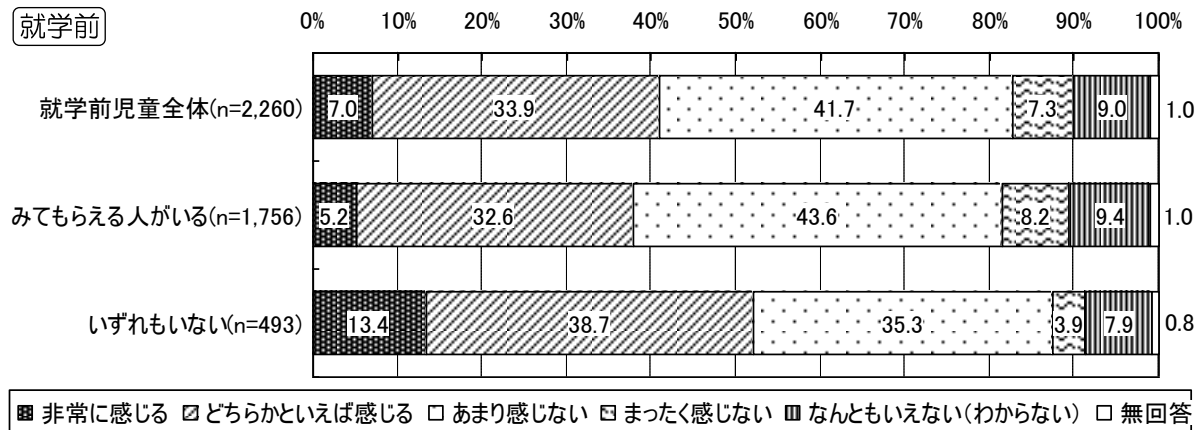




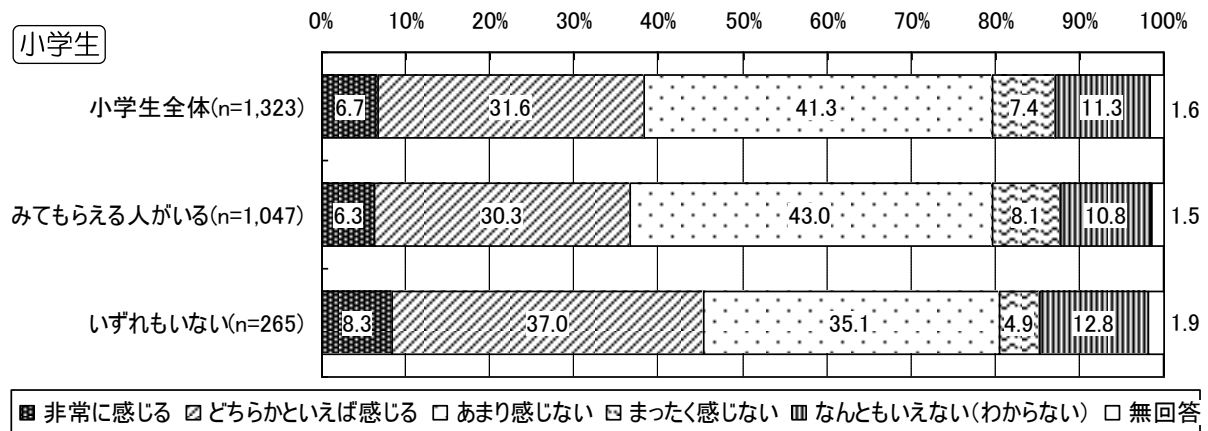
■ 『日頃子どもをみてもらえる人の有無』での状況

日頃子どもをみてもらえる人が「いずれもない」と回答した人はみてもらえる人がいると回答した人に比べて、子育てに不安や負担を「非常に感じる」「どちらかといえば感じる」と回答した割合が高くなっています。

就学前



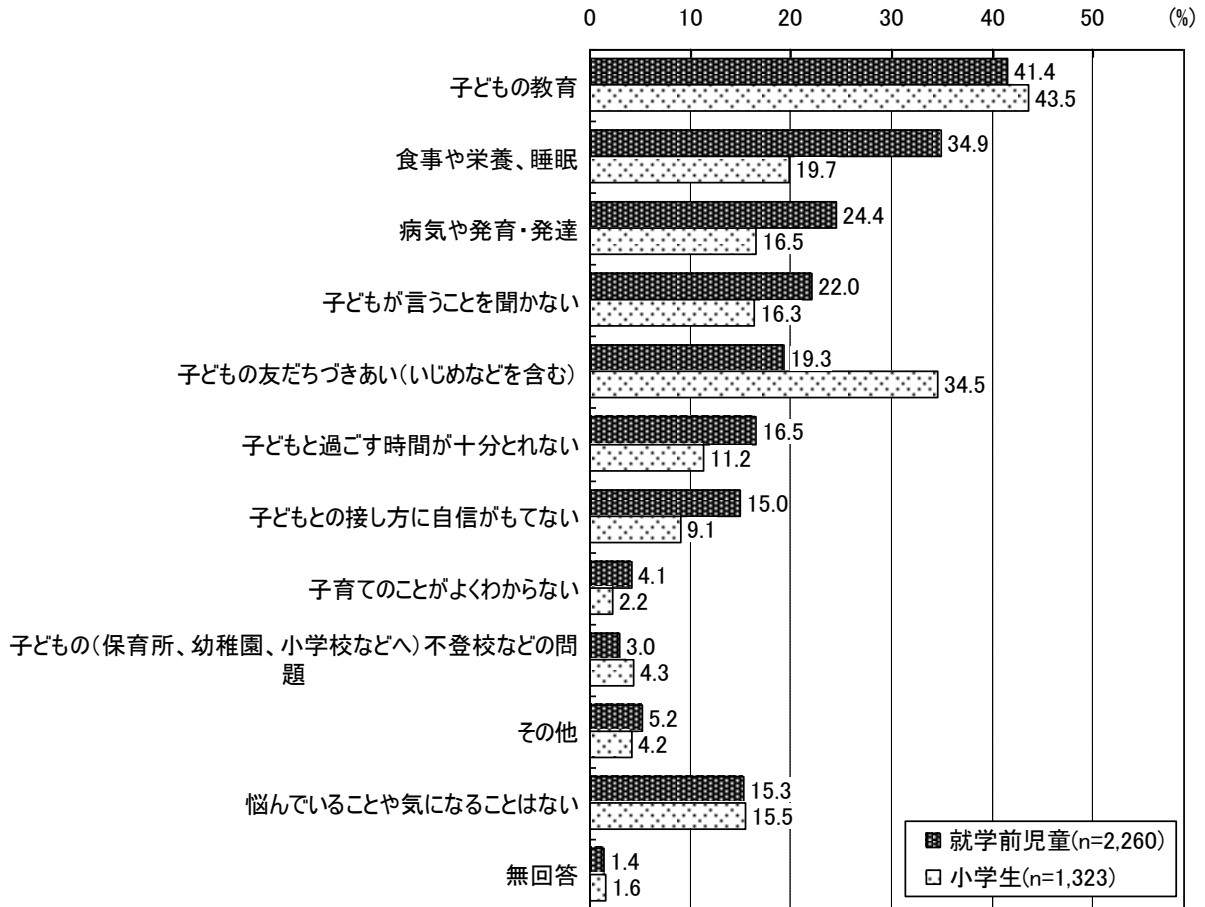
小学生



子育てに関して日頃悩んでいること（子どもに関すること）

■子どもの教育や健康への悩みが多い

- 就学前児童・小学生ともに子どもの教育に関する悩みが高くなっています。
- 就学前児童では子どもの食事や栄養、睡眠に関する悩みが高くなっています。小学生では子どもの友だちづきあいに関する悩みが高くなっています。



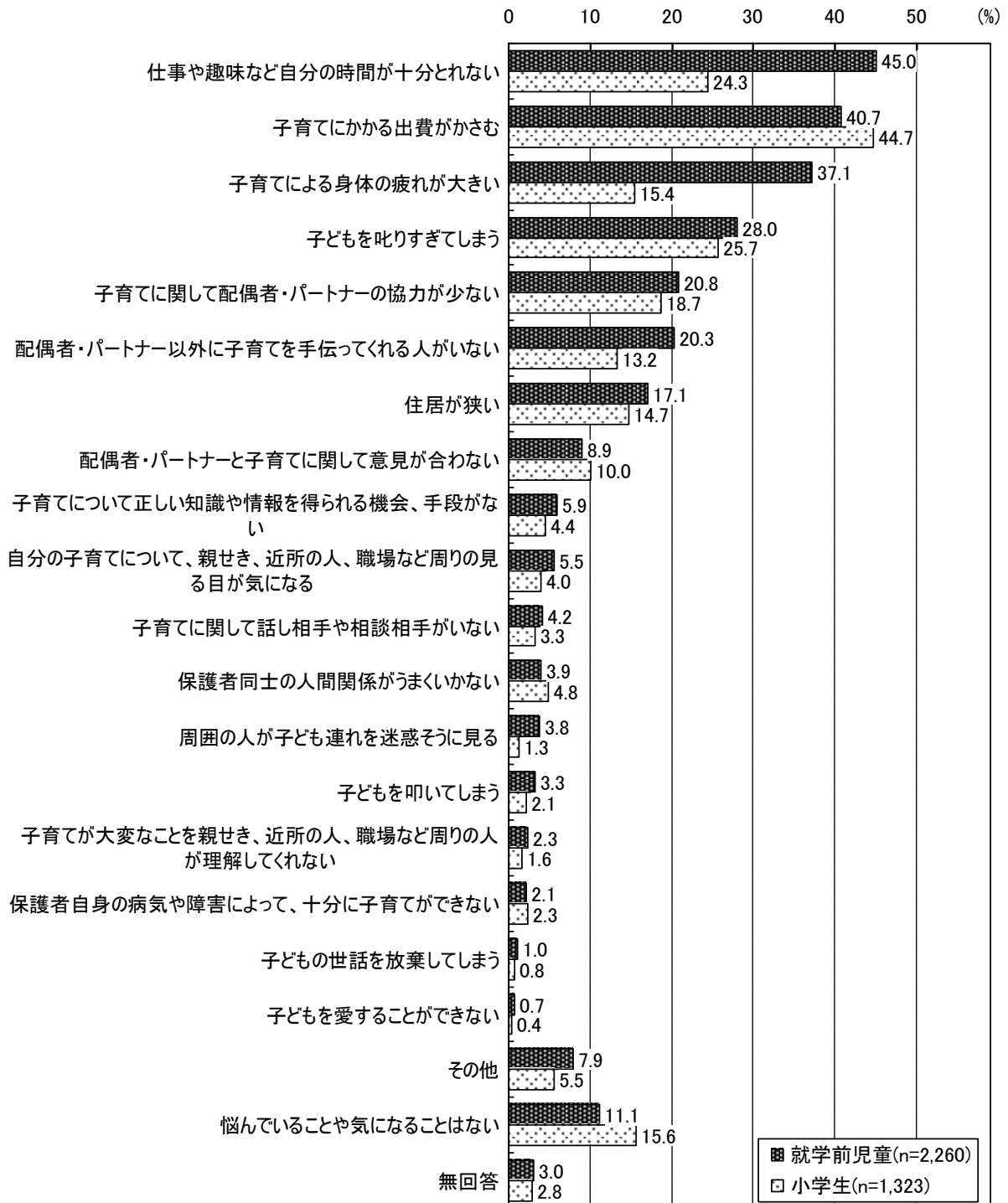


子育てに関して日頃悩んでいること（保護者に関すること）

■子育てにかかる出費がかさみ、特に就学前児童では時間的・体力的な負担が大きい

○就学前児童・小学生ともに子育てにかかる出費がかさむという回答が高くなっています。

○就学前児童では、小学生に比べて時間的・体力的な負担が大きいという回答が高くなっています。

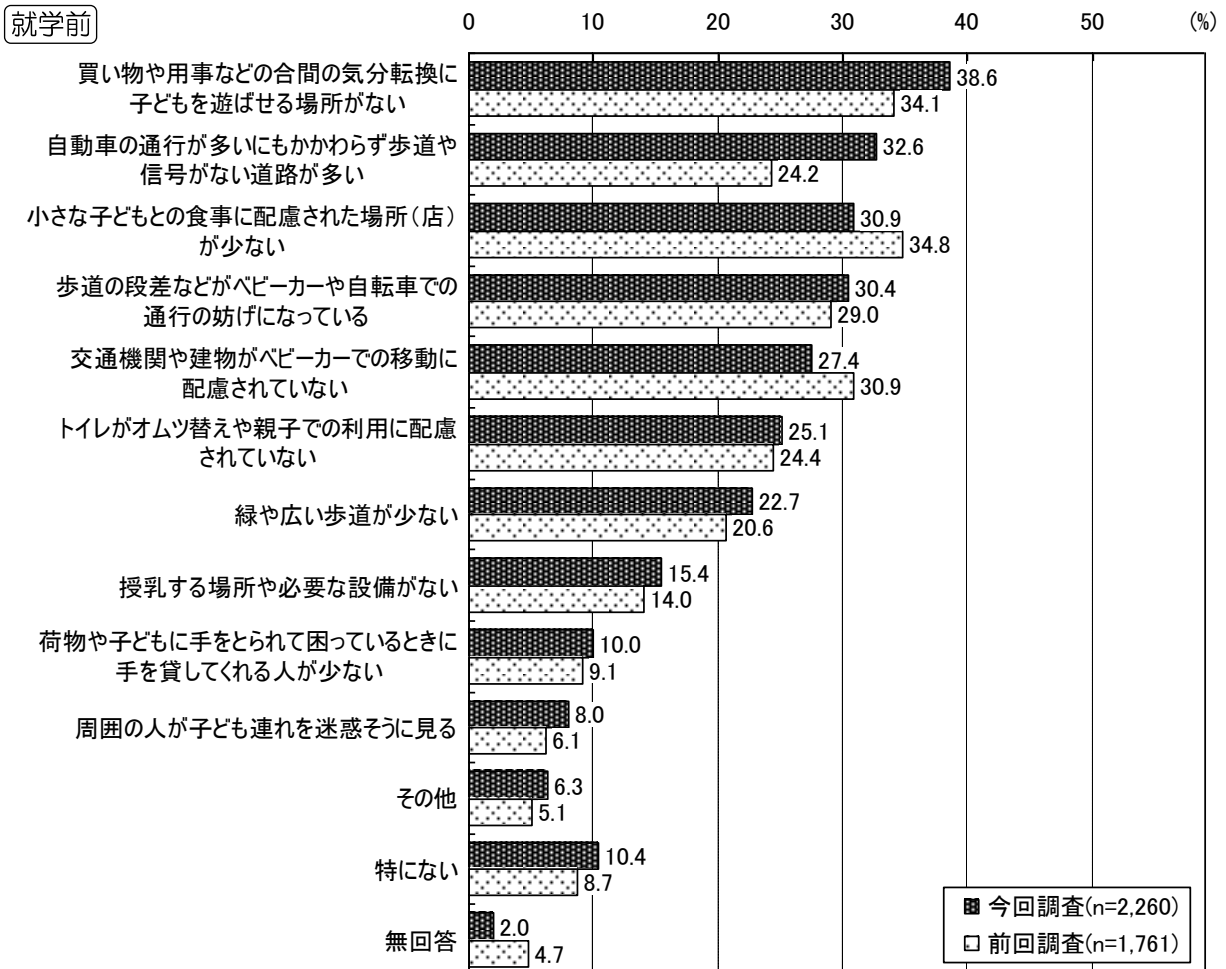


②子育て環境について

子どもとの外出時に困ること

■子どもの遊び場や道路環境に関する困りごとが多い

- 子どもの遊び場や小さな子どもの食事に配慮された場所が少ないという回答が高くなっています。
- 前回調査に比べると歩道や信号がないなど道路環境に関する回答が増加しています。
- 交通機関やトイレなどの子育てバリアフリー化についての回答は前回調査と同様の約30%となっています



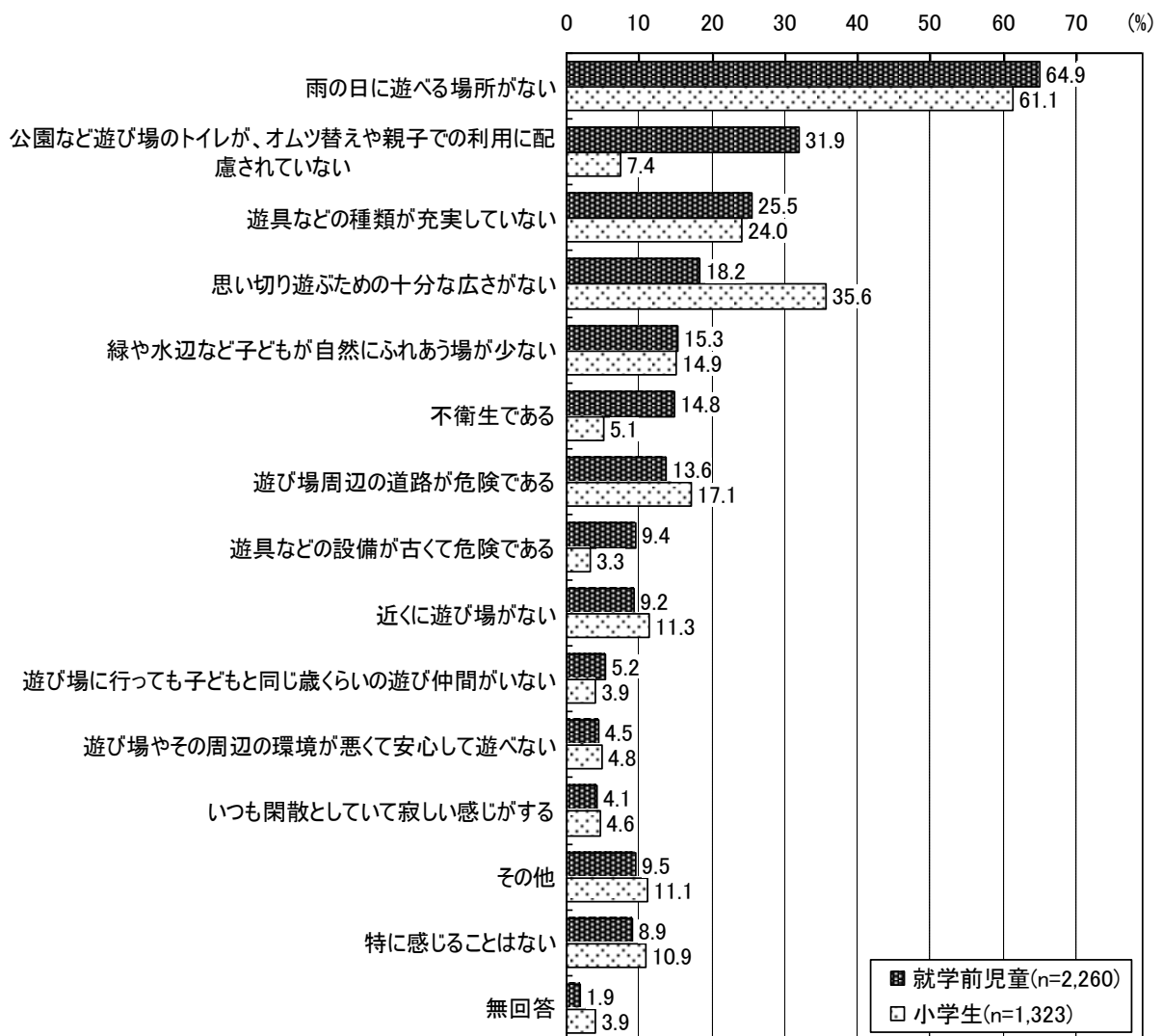


地域での子どもの遊び場について日頃感じること

■雨の日や思い切り遊べる広い場所が求められている

○就学前児童・小学生ともに、雨の日に遊べる場所がないという回答が最も高くなっています。また、小学生では思い切り遊ぶための十分な広さがないという回答が次いで高くなっています。

○就学前児童ではトイレがオムツ替えや親子での利用に配慮されていないという回答が高くなっています。



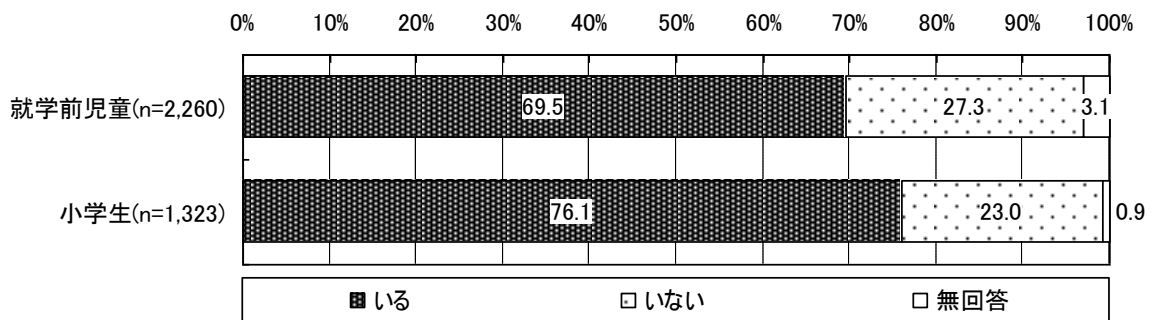
2章 子どもや子育て家庭の状況

③地域での子育て・子育てについて

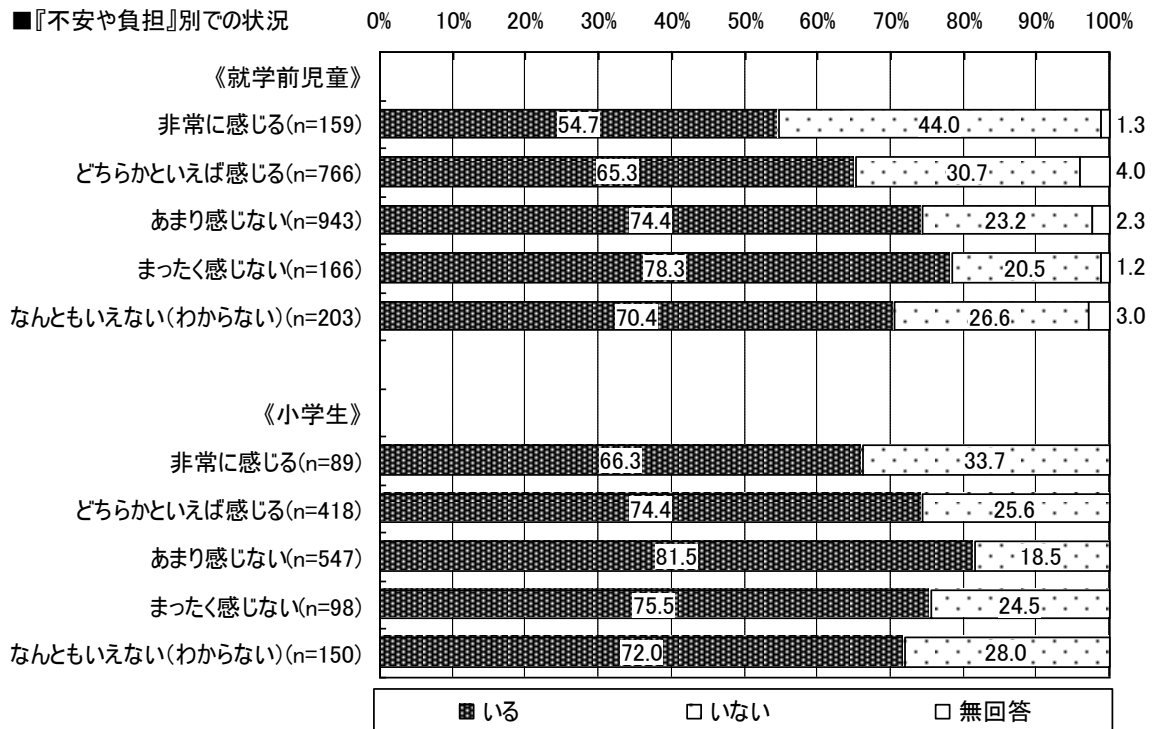
日常的に話をする人の有無について

■日常的に話をする人がいる方が、子育てへの不安や負担感が低い傾向

- 就学前児童・小学生ともに、日常的に話をする人がいるという回答が過半数となっており、小学生では就学前児童より高くなっています。
- また、日常的に話をする人がいると回答した人では、子育てに不安や負担を感じる割合が低い傾向があります。



■『不安や負担』別での状況

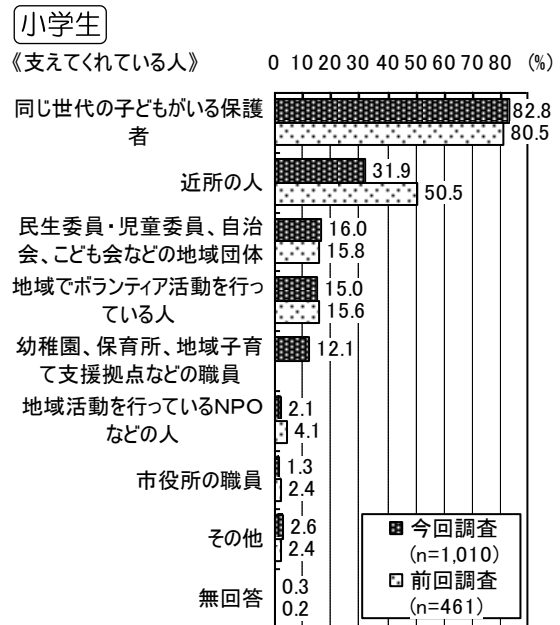
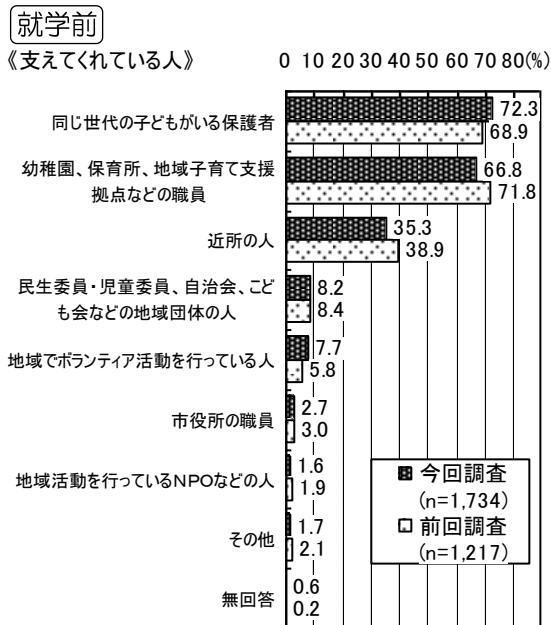
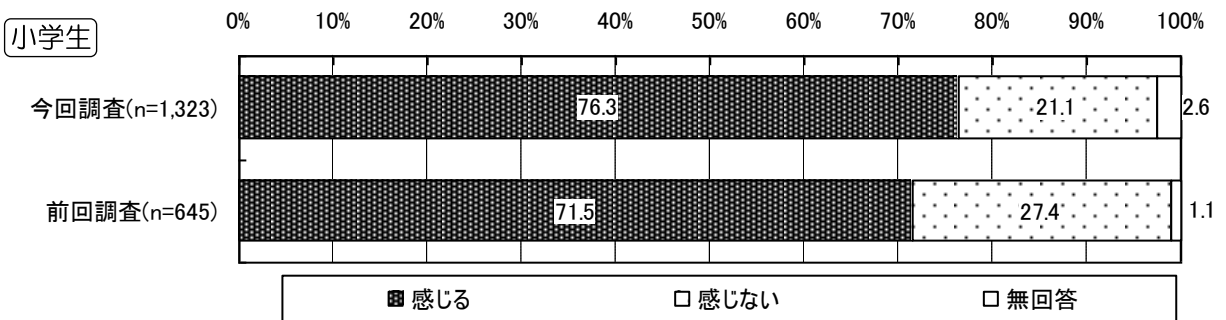
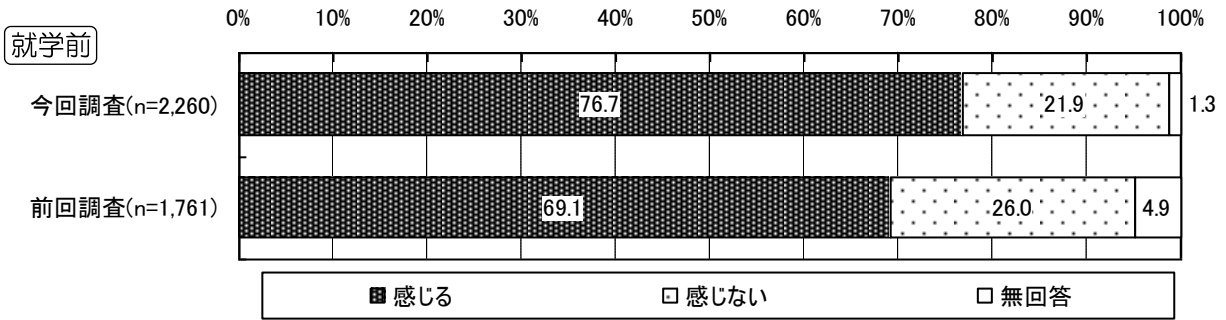




自分の子育てが地域の人に支えられているか

■地域の人に支えられていると感じる回答が増加

- 前回調査に比べて支えられていると「感じる」という回答が増加しています。
- 支えてくれている人は、同じ世代の子どもがいる保護者や保育・教育施設の職員、近所の人が高くなっています。

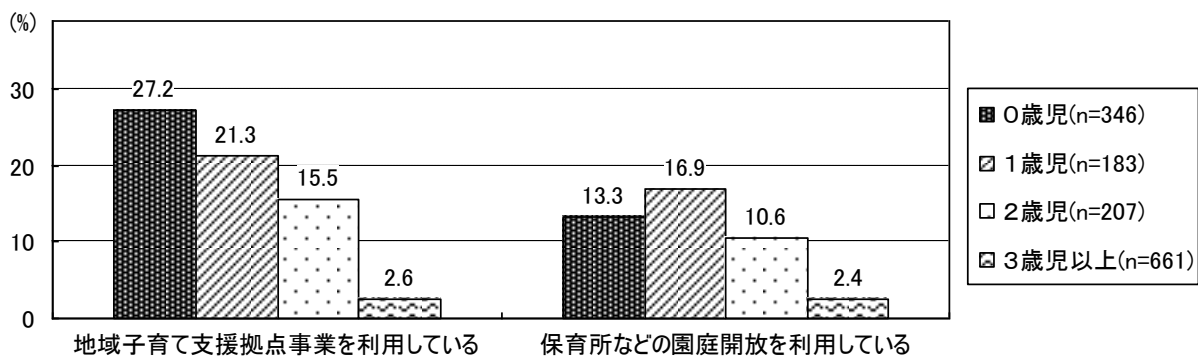
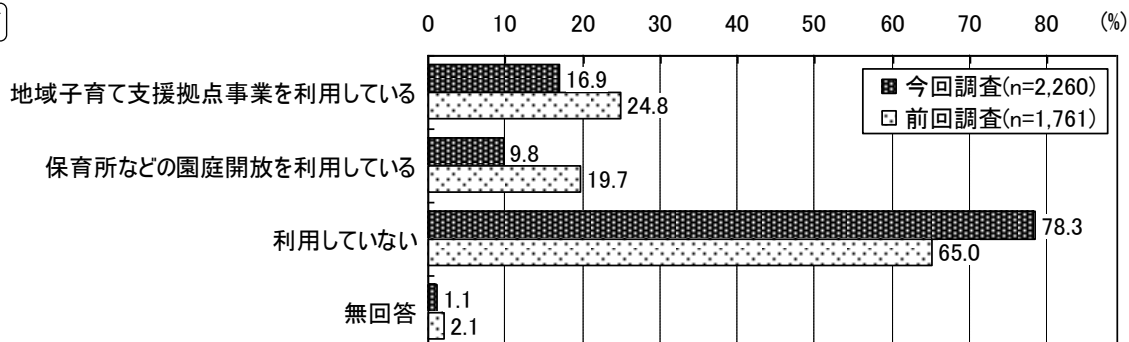


地域子育て支援拠点事業の利用状況

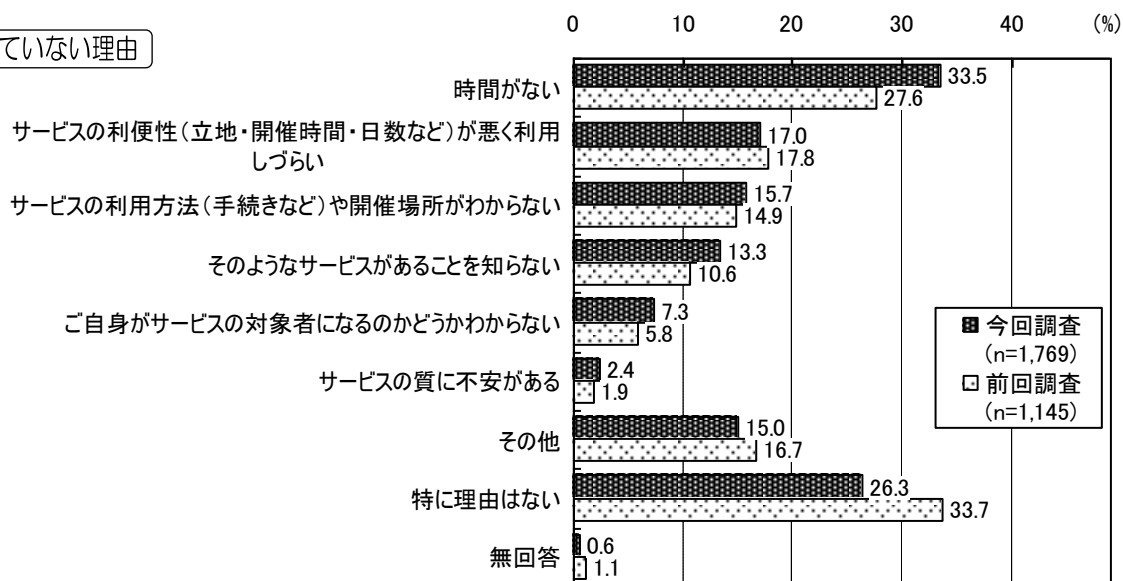
■地域子育て支援拠点事業の利用は0～2歳児が約6割

- 前回調査に比べて利用している割合は減少し、子どもの年齢で見ると、年齢が上がるにつれて利用割合は減少傾向で、3歳児以上で大きく減少しています。
- 利用していない理由は時間がないことが最も高くなっています。

就学前



利用していない理由



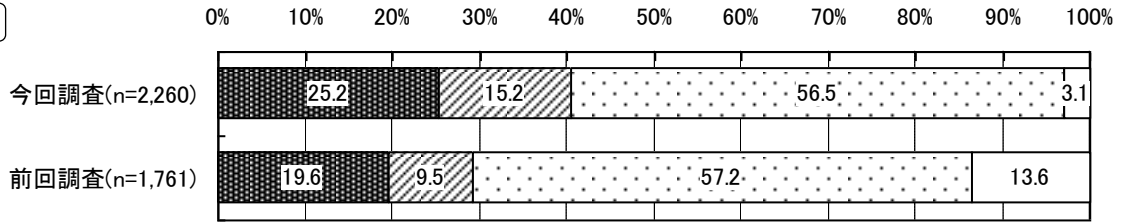


地域子育て支援拠点事業の利用希望

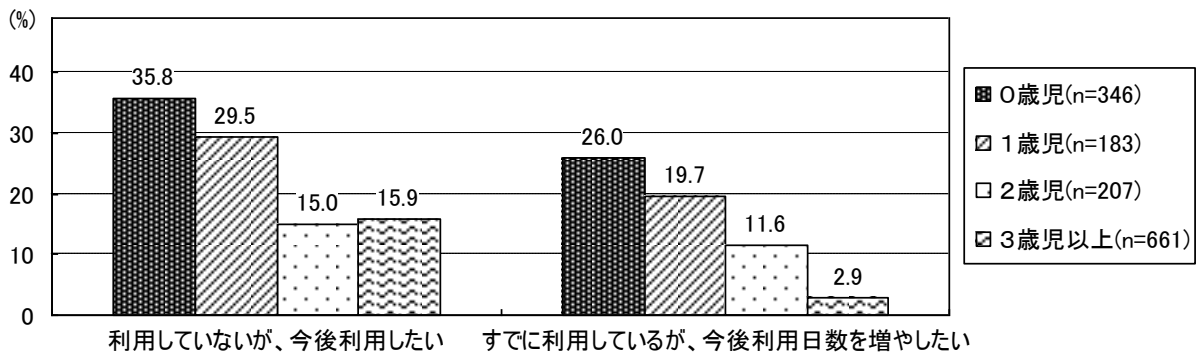
■地域子育て支援拠点事業の利用希望が増加

- 前回調査に比べて今後の利用希望が高くなっており、希望の利用日数も増加しています。
- 利用したいサービスとしては、常設の子育て親子の交流の場・遊びの場が最も高くなっています。

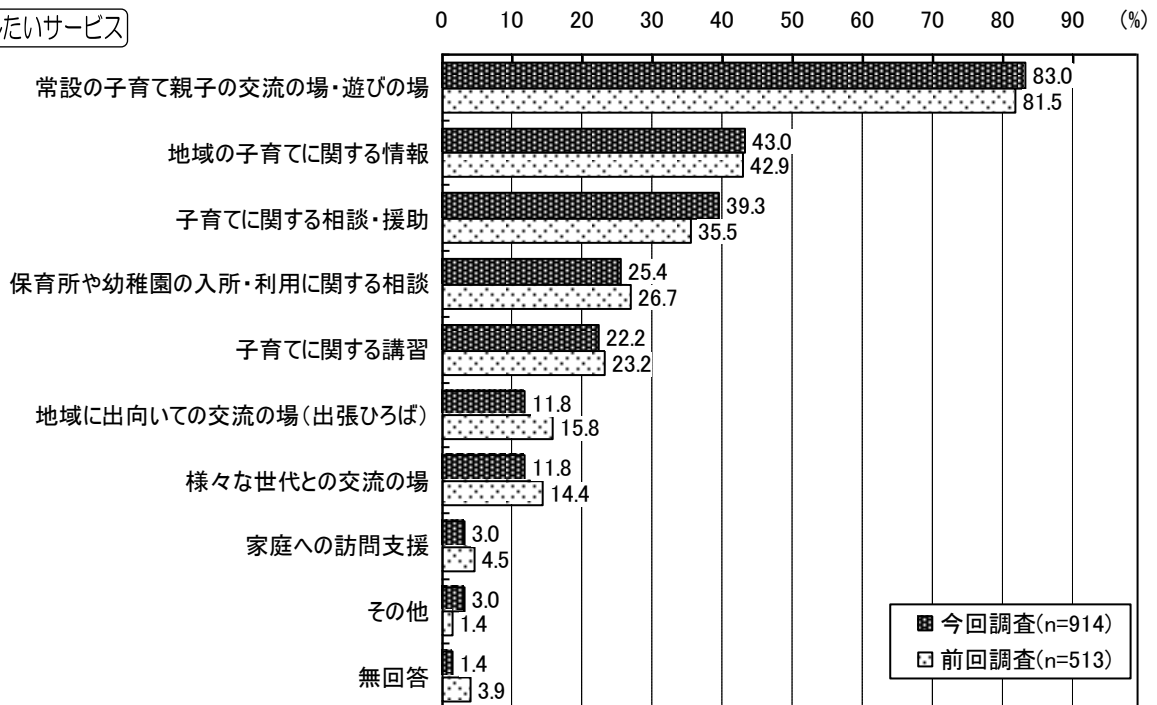
就学前



■ 利用していないが、今後利用したい □ すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい ○ 利用希望はない □ 無回答



利用したいサービス



地域子ども教室について

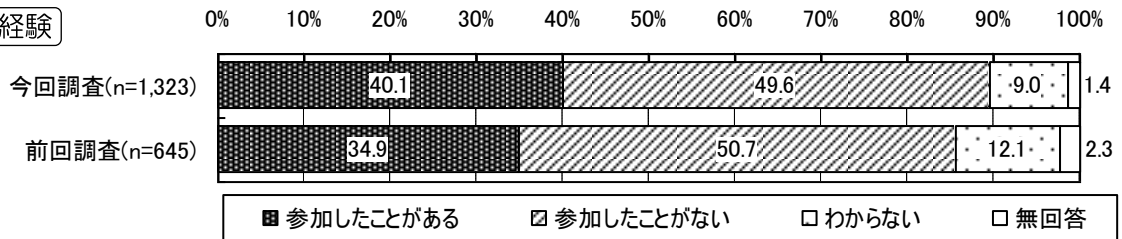
■利用は伸びているが、今後の参加希望については「わからない」が多い

○参加したことがある人は前回調査に比べて増加していますが、今後の参加希望は減少し、わからないという回答が高くなっています。

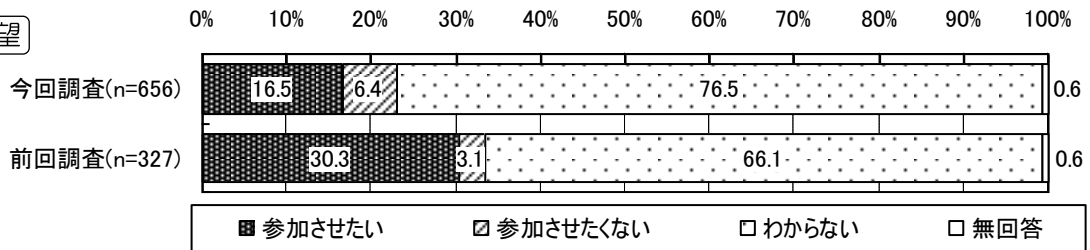
○期待する活動として、様々な体験ができる機会を望む回答が高くなっています。

小学生

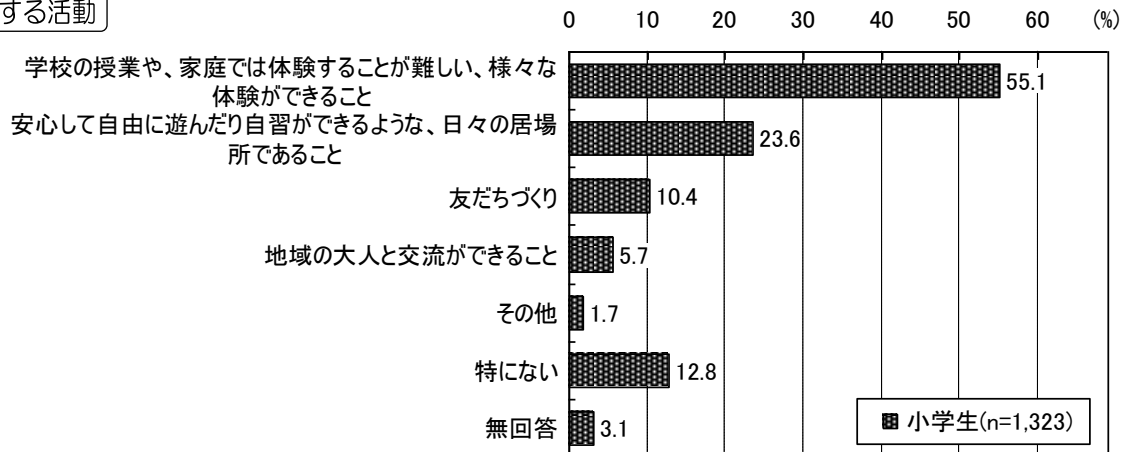
参加経験



参加希望



期待する活動

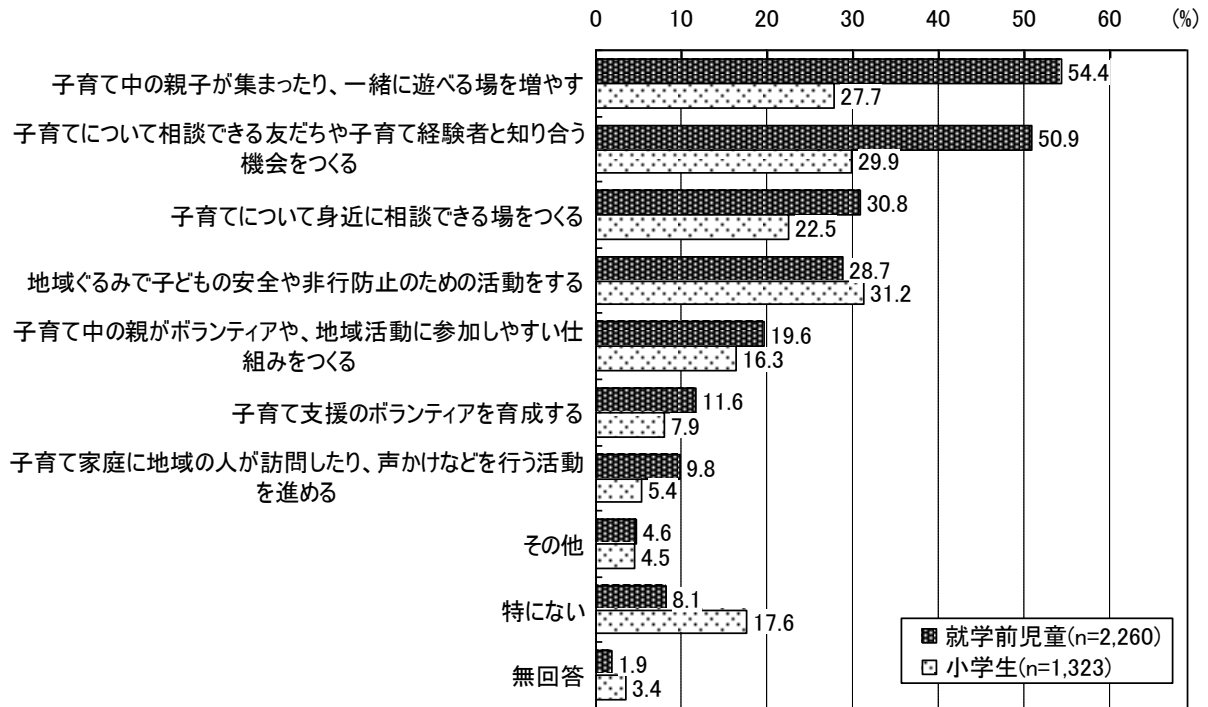




地域で必要と思う取組みについて

■子育て世代同士が集える場所が求められている

○就学前児童・小学生ともに、子育て中の親子が集まったり、子育てについて相談できる場を望む回答が高く、特に就学前児童で高くなっています。



2章 子どもや子育て家庭の状況

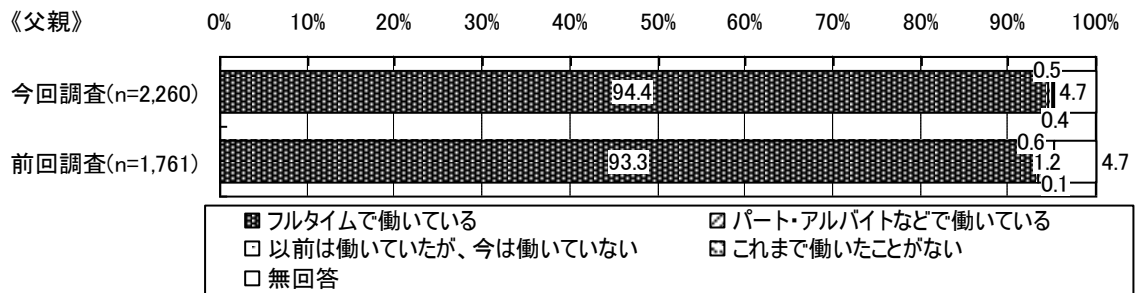
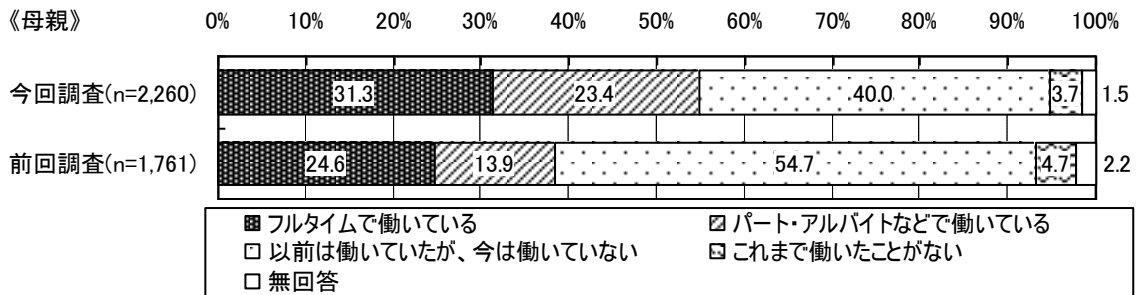
④子育てと仕事について

父母の就労状況について

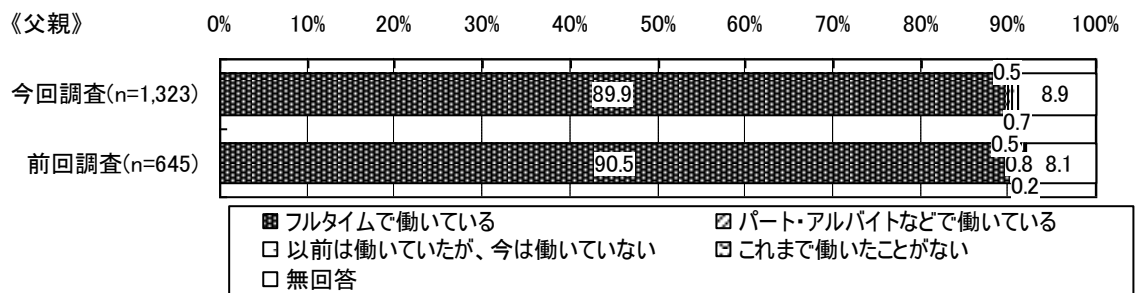
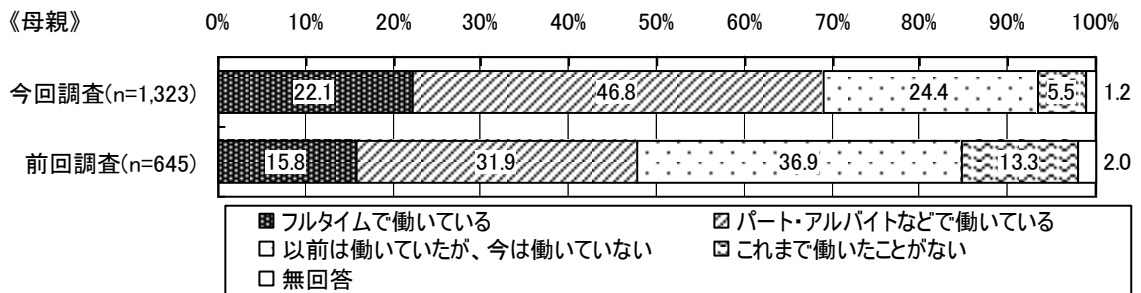
■フルタイム、パート・アルバイトともに働く母親が増加

○就学前児童・小学生ともに、就労している母親が前回調査に比べて高くなっています。小学生ではフルタイムとパート・アルバイトをあわせると約7割の母親が就労しています。

就学前



小学生





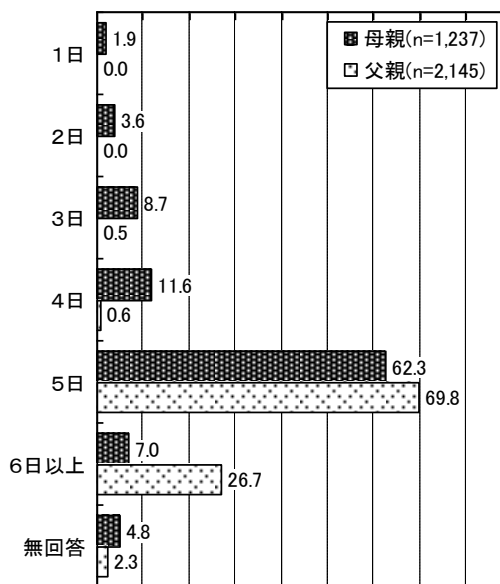
父母の就労時間、就労日数

■父母ともに週5日勤務が多く、就労時間は8時間前後

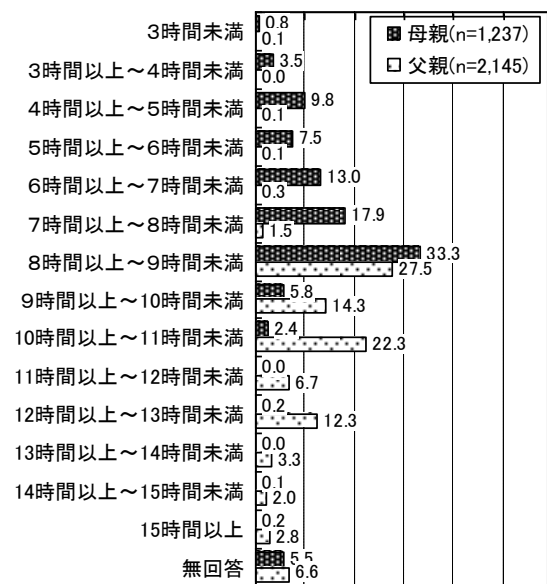
- 就学前児童では週5日勤務が父母ともに最も高くなっています。また、父親では週6日以上も26.7%と高く、土曜日や日曜日にも勤務していることがうかがえます。
- 就労時間では父母ともに8時間以上9時間未満が最も高く、母親では4時間以上8時間未満が高くなっています。

就学前

《就労日数》 0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

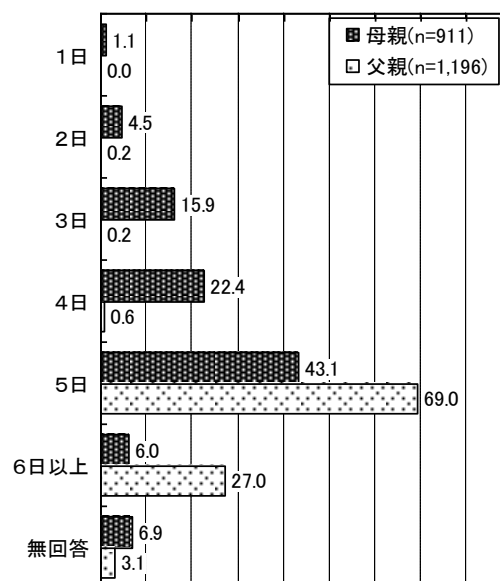


《就労時間》 0 10 20 30 40 50 (%)

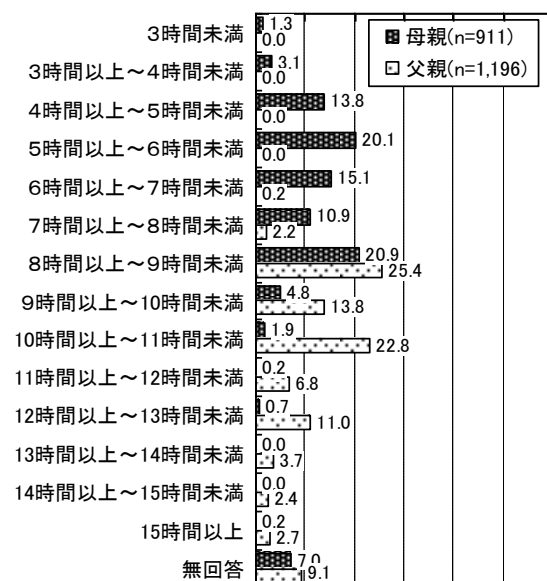


小学生

《就労日数》 0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)



《就労時間》 0 10 20 30 40 50 (%)

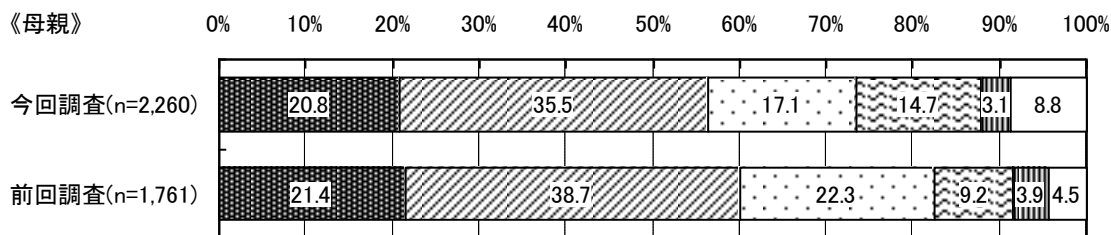


家事、育児分担への満足度について

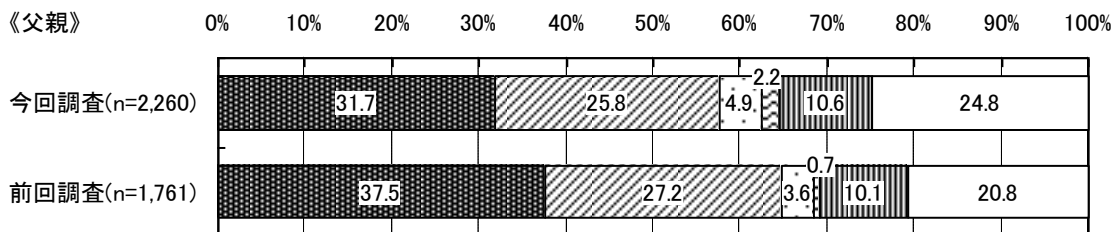
■配偶者・パートナーとの家事、育児分担が不十分と感じる母親が増加

○就学前児童・小学生ともに、前回調査に比べて家事や育児の分担について不十分だと思うという回答が高くなっています。

就学前

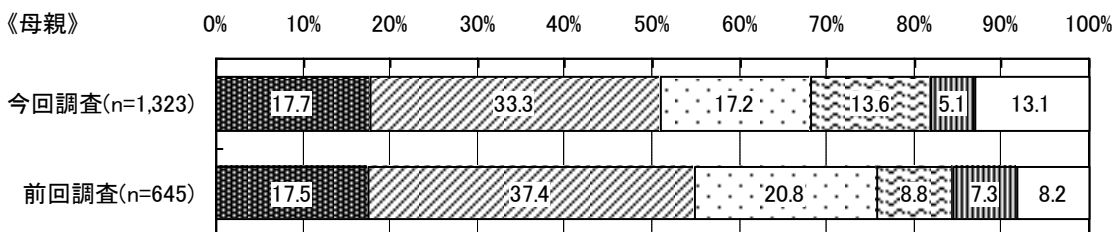


■ 十分だと思う □ まあまあ十分だと思う □ あまり十分だと思わない □ 不十分だと思う ■ わからない □ 無回答

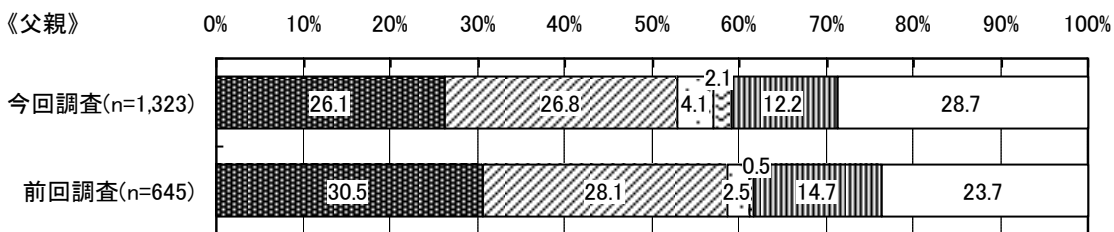


■ 十分だと思う □ まあまあ十分だと思う □ あまり十分だと思わない □ 不十分だと思う ■ わからない □ 無回答

小学生



■ 十分だと思う □ まあまあ十分だと思う □ あまり十分だと思わない □ 不十分だと思う ■ わからない □ 無回答



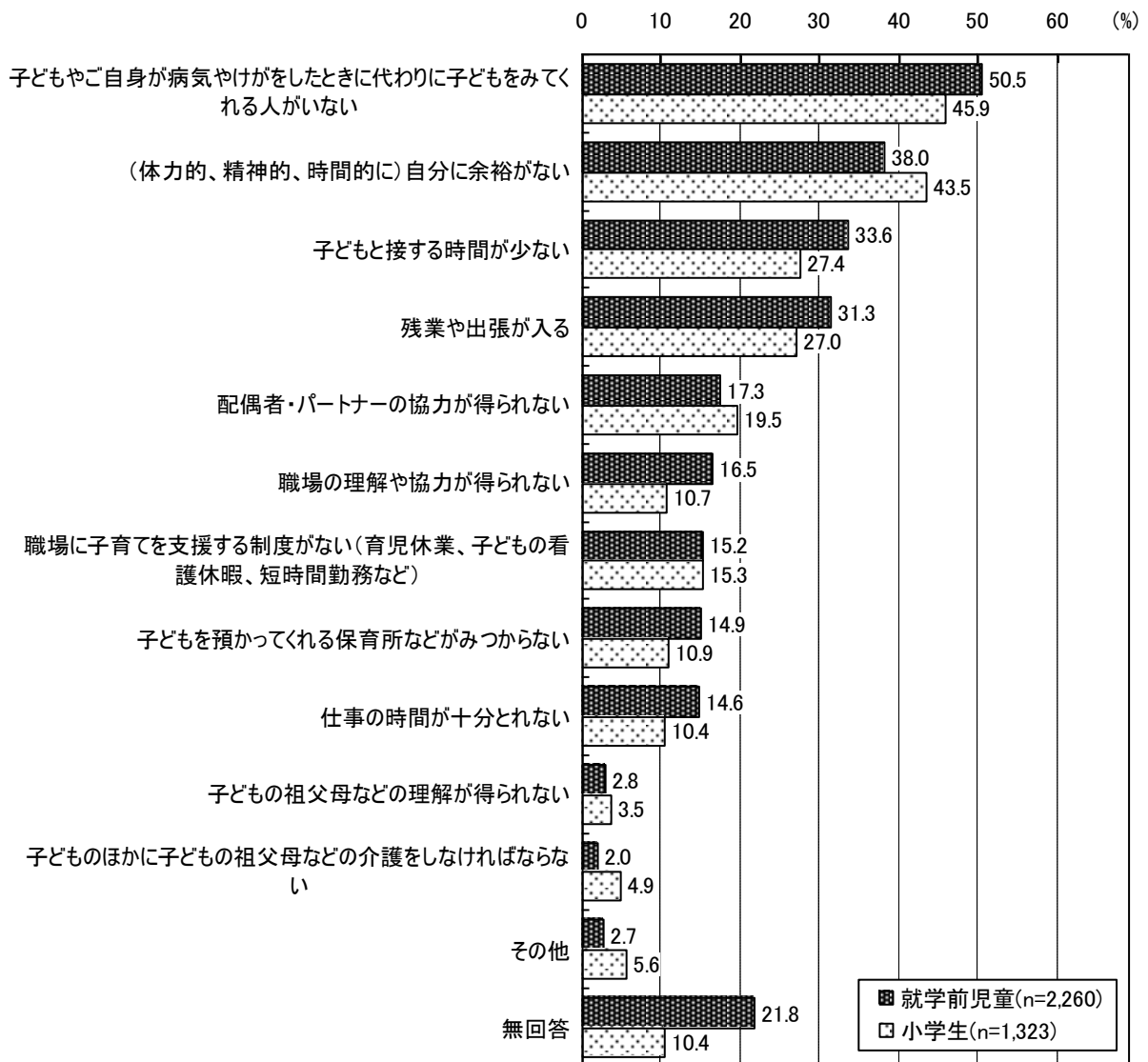
■ 十分だと思う □ まあまあ十分だと思う □ あまり十分だと思わない □ 不十分だと思う ■ わからない □ 無回答



仕事と子育てを両立させる上での課題について

■緊急時の預け先や保護者の休息のための機会が必要

- 就学前児童・小学生ともに、子どもの急な預け先がない、保護者自身の余裕がないという回答が高くなっています。
- 就学前児童では、子どもと接する時間が少ない、残業や出張が入る、仕事の時間が十分にとれないという回答が高くなっています。



2章 子どもや子育て家庭の状況

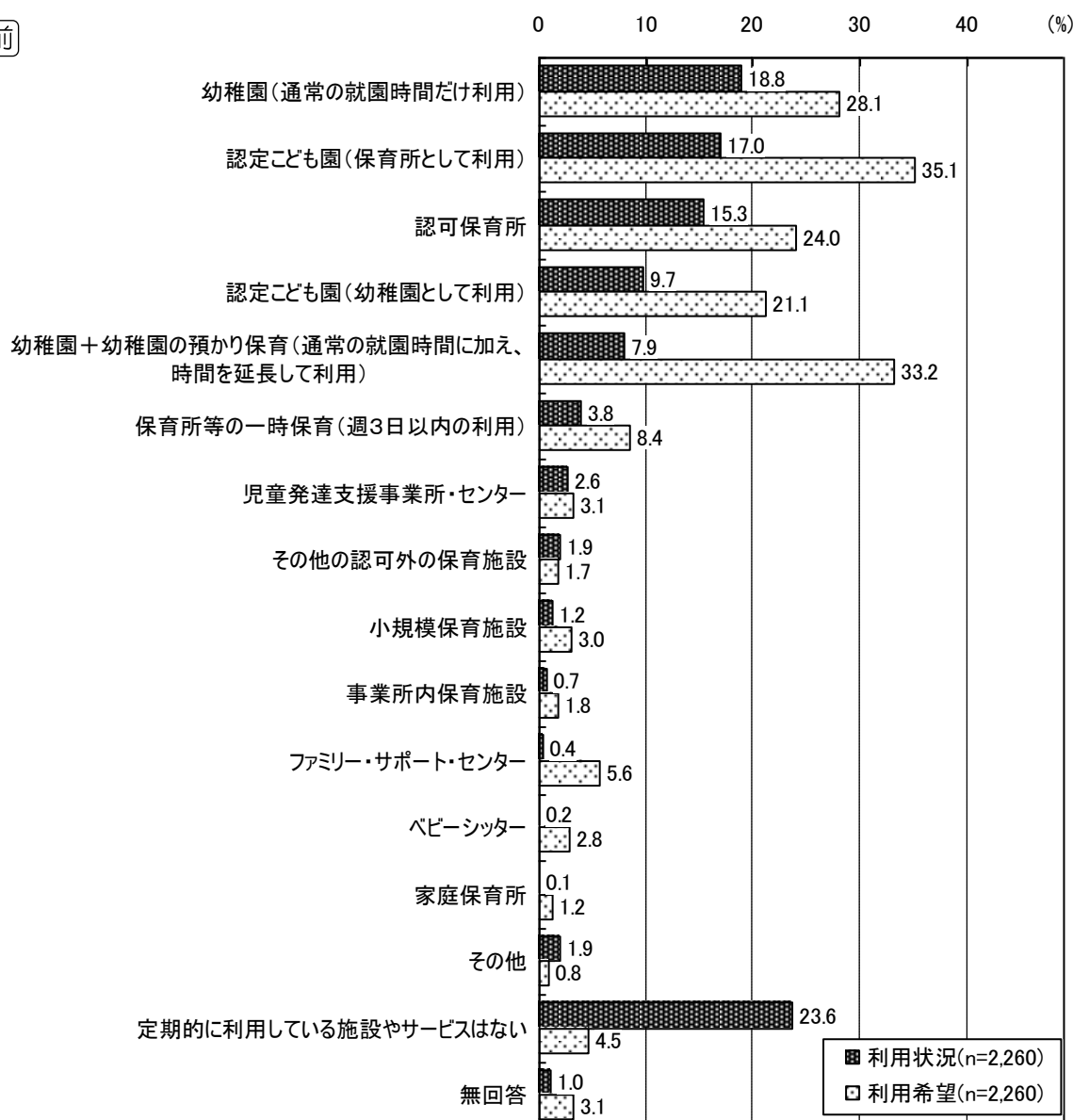
⑤ 子育て・子育てに関する支援や対策について

施設やサービスの利用状況及び利用希望について

■ 幼稚園を利用している割合が高く、幼稚園の預かり保育の利用希望が高い

○現在の利用状況では幼稚園（通常の就園時間だけ利用）や認定こども園[★]、認可保育所の利用が高くなっていますが、今後の利用希望では、認定こども園（保育所として利用）や幼稚園とあわせて幼稚園の預かり保育の利用希望が高くなっています。

就学前



★は資料編「6 用語集」をご覧ください

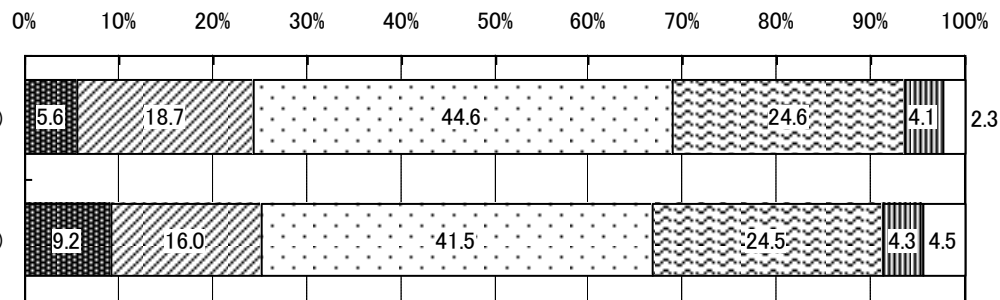


子育て環境や子育て支援への満足度について

■満足度は「普通・どちらでもない」が約半数となっている

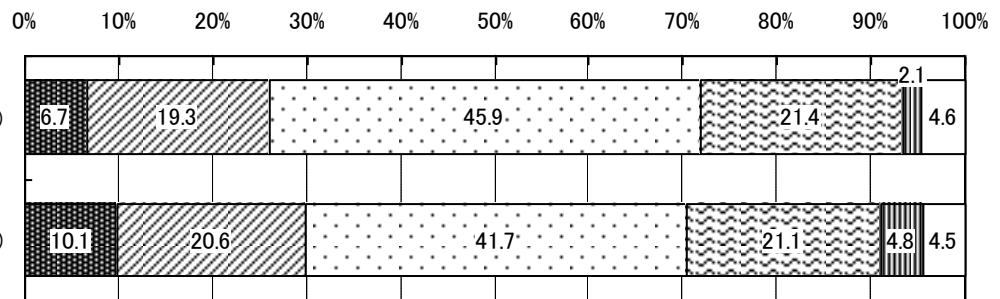
○前回調査に比べて、就学前児童では1点（満足度が低い）が減少し、2点（やや低い）、3点（普通・どちらでもない）が増加しています。また、小学生では1点と5点（満足度が高い）が減少し、3点が増加しています。

就学前



■ 1点 (満足度が低い) ■ 2点 (やや低い) □ 3点 (普通・どちらでもない) ■ 4点 (やや高い) ■ 5点 (満足度が高い) □ 無回答

小学生

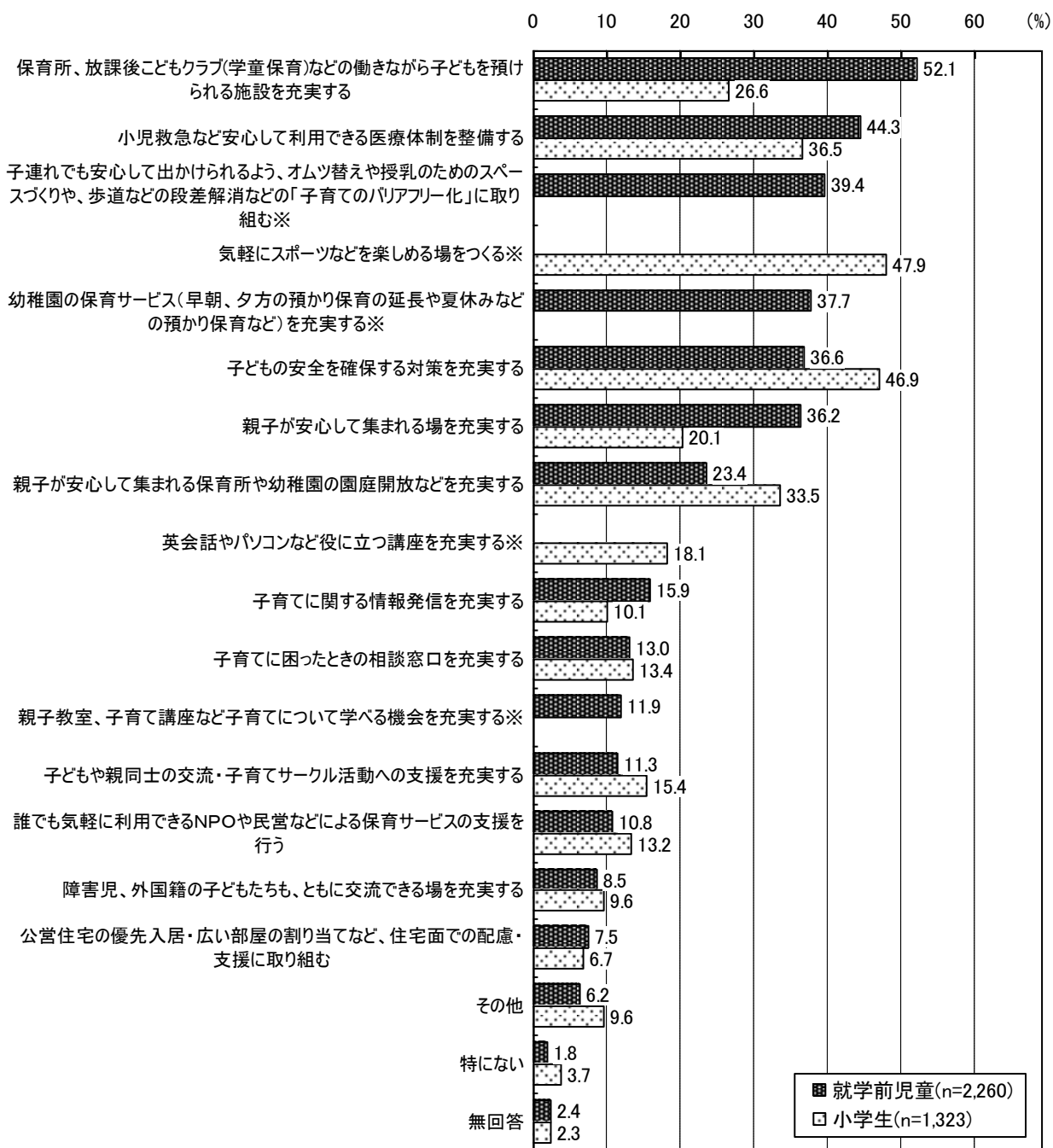


■ 1点 (満足度が低い) ■ 2点 (やや低い) □ 3点 (普通・どちらでもない) ■ 4点 (やや高い) ■ 5点 (満足度が高い) □ 無回答

充実してほしい子育て支援策について

■保育サービスや子育てのバリアフリー化、小児医療体制の整備など多岐にわたる支援策の充実が求められている

- 就学前児童では働きながら子どもを預けられる施設やサービスに関する回答や小児医療体制の整備、子育てのバリアフリー化などが高くなっています。
- 就学前児童・小学生ともに、小児医療体制の整備や子どもの安全確保、遊び場の確保などが高くなっています。



※ それぞれ就学前児童、小学生のみの設問



(2) 子ども自身の意識や状況

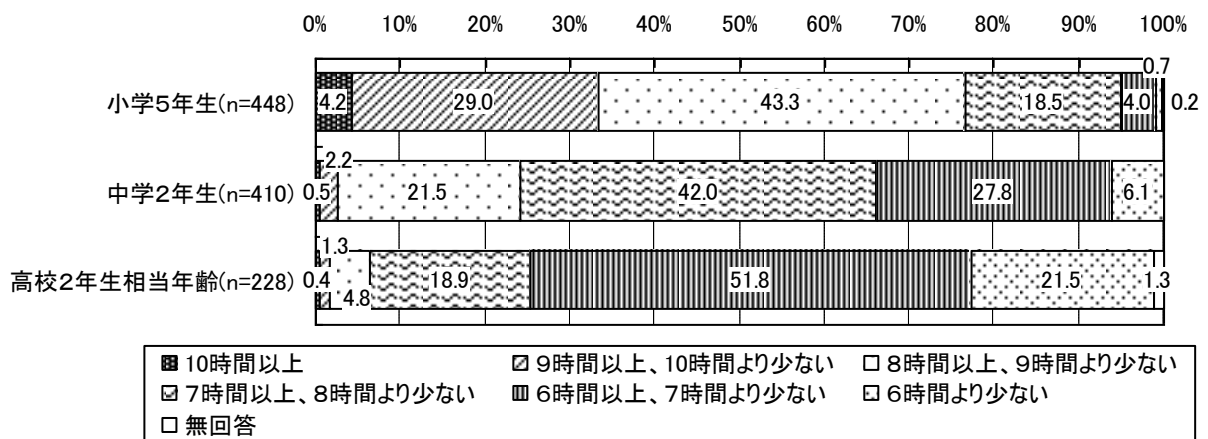
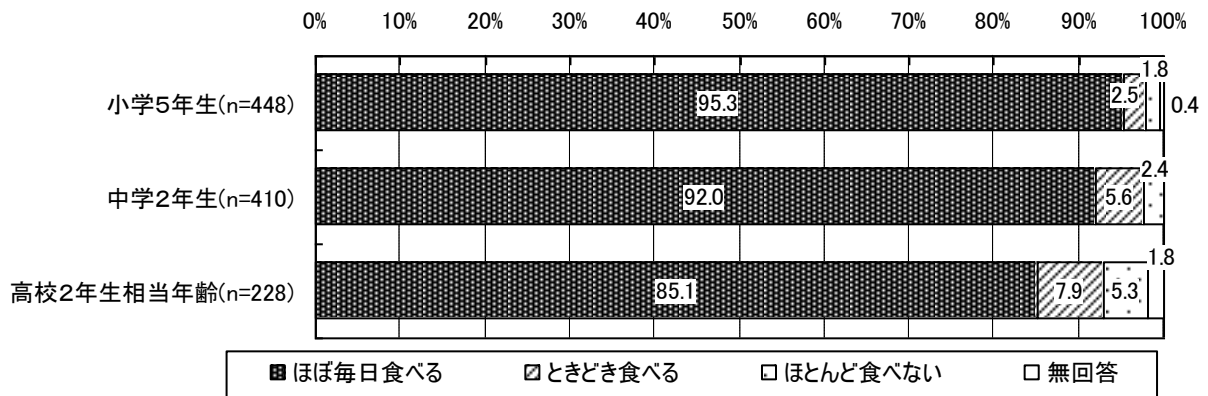
①日常生活について

朝食や睡眠時間について

■年齢が上がるにつれ、朝食の欠食が増加し、睡眠時間が減少

○朝食については、小学5年生・中学2年生・高校2年生相当年齢すべての年齢でほぼ毎日食べるという回答が約90%となっていますが、年齢が上がるにつれてときどき食べるやほとんど食べないという回答が高くなっています。

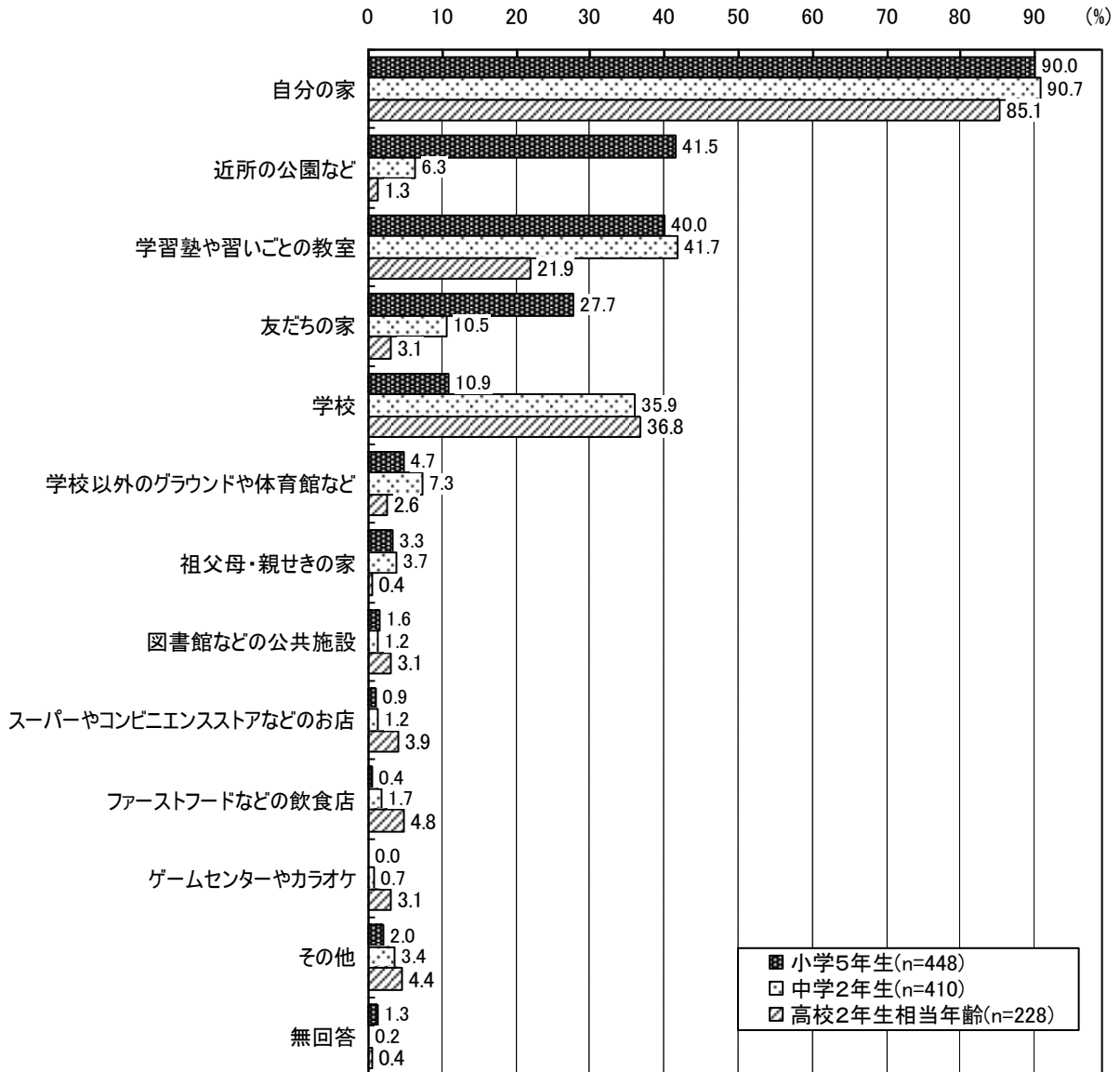
○睡眠時間については、中学2年生は小学5年生に比べて大きく減少し、8時間未満が75.9%となっています。また、高校2年生相当年齢では7時間未満が73.3%となっています。



放課後に過ごす場所について

■子どもの多くが学習塾や習いごとの教室、学校で過ごしている

○自宅を除くと、小学5年生では公園、学習塾や習いごとの教室、友だちの家が高くなっています。また、中学2年生・高校2年生相当年齢では、学習塾や習いごとの教室、学校が高くなっています。

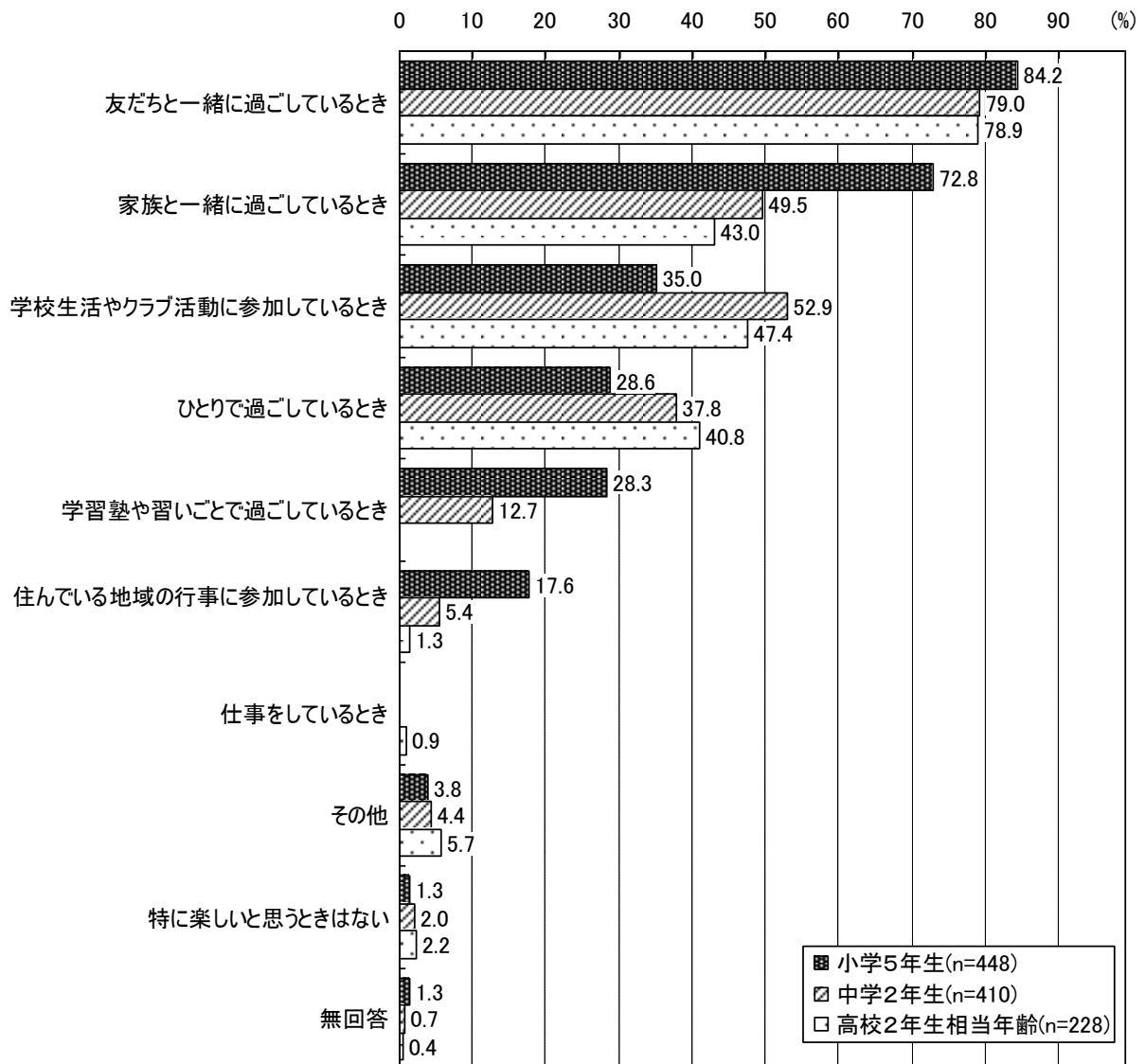




毎日の生活で楽しいと思うとき

■年齢とともにひとりで過ごすことを好む傾向

- 小学5年生・中学2年生・高校2年生相当年齢すべての年齢で友だちと一緒に過ごしているときという回答が最も高くなっています。
- 小学5年生では家族と一緒に過ごすときが次いで高くなっています。
- 年齢が上がるにつれてひとりで過ごしているときが高くなる傾向がみられます。

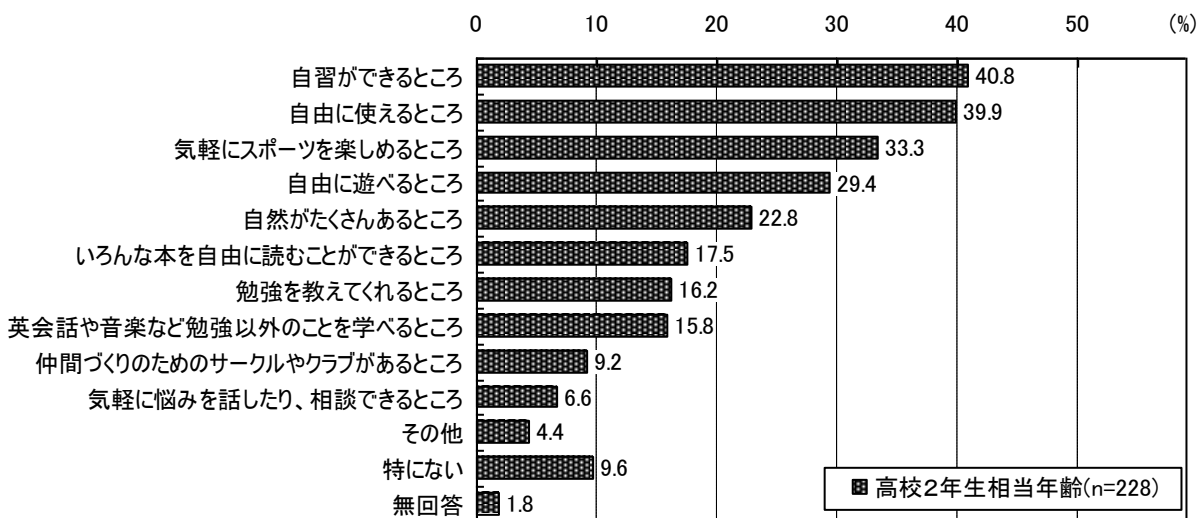
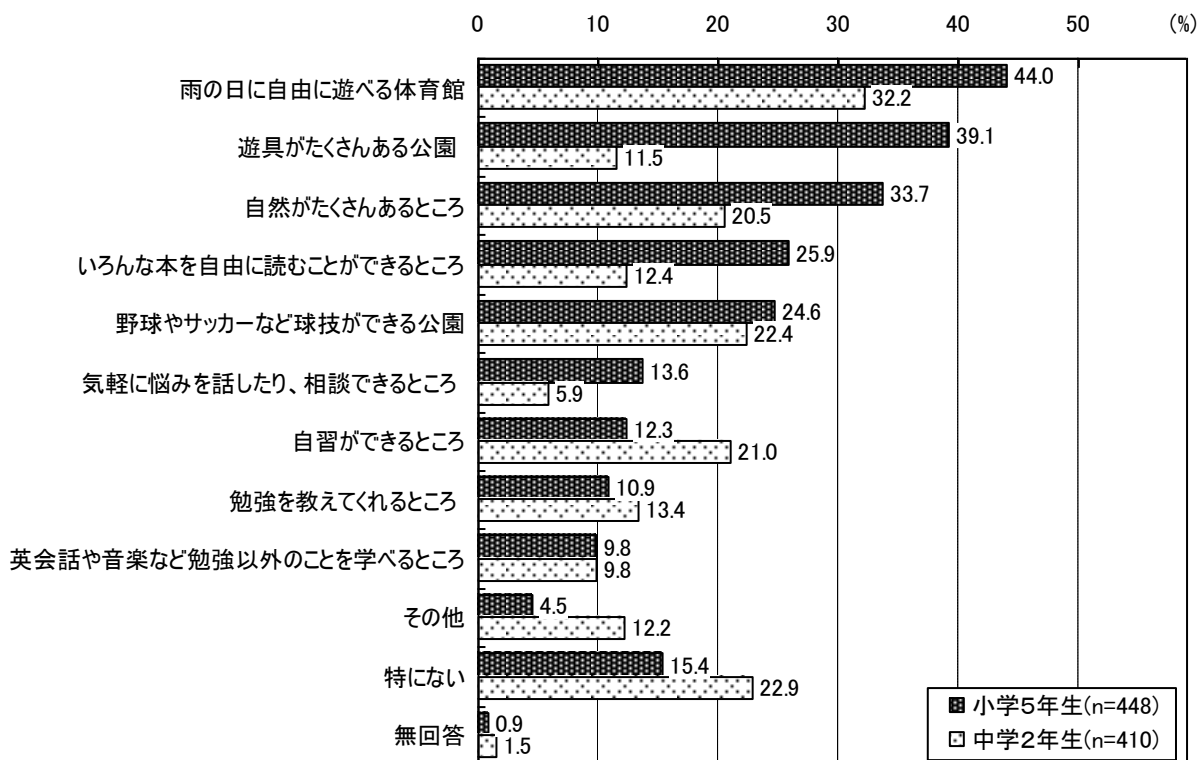


②日頃の活動について

放課後や休日に時間を過ごすのにあればよいと思う場所

■すべての年齢で身体を動かせる場所が求められているほか、年齢が上がるにつれて自習ができる場所の希望が高くなっている

- 小学5年生では雨の日に自由に遊べる体育館や遊具がたくさんある公園など、運動できる環境についての回答が高くなっています。
- 年齢が上がるにつれて自習ができる場所についての回答が高くなり、高校2年生で最も高くなっています。



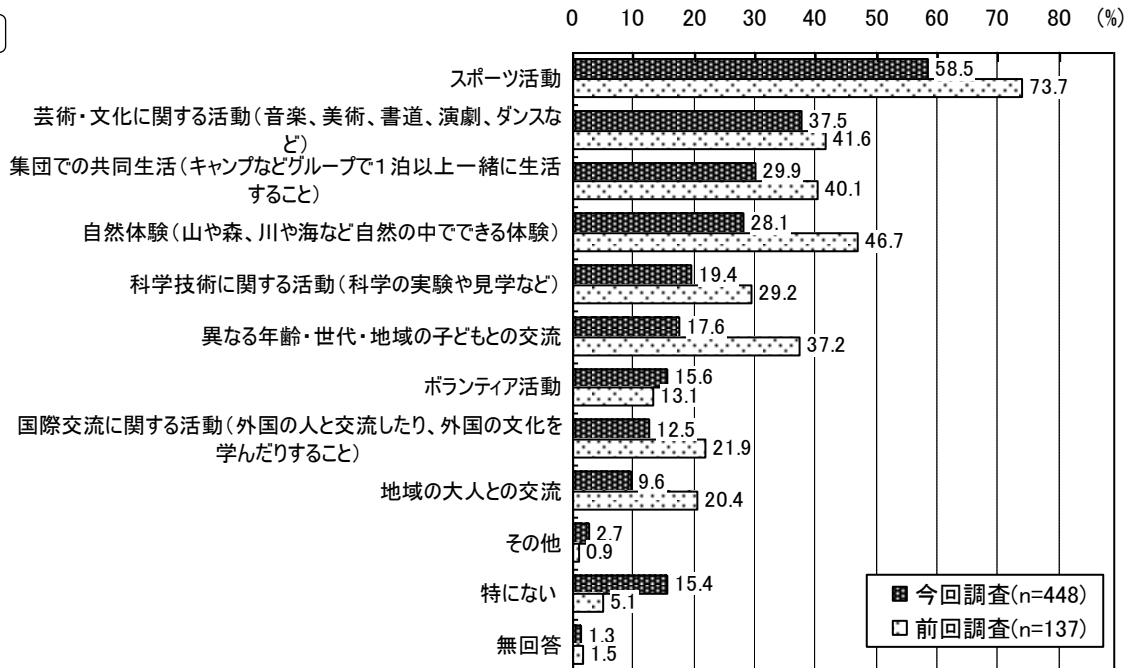


学校の授業や行事以外で体験したことがある活動

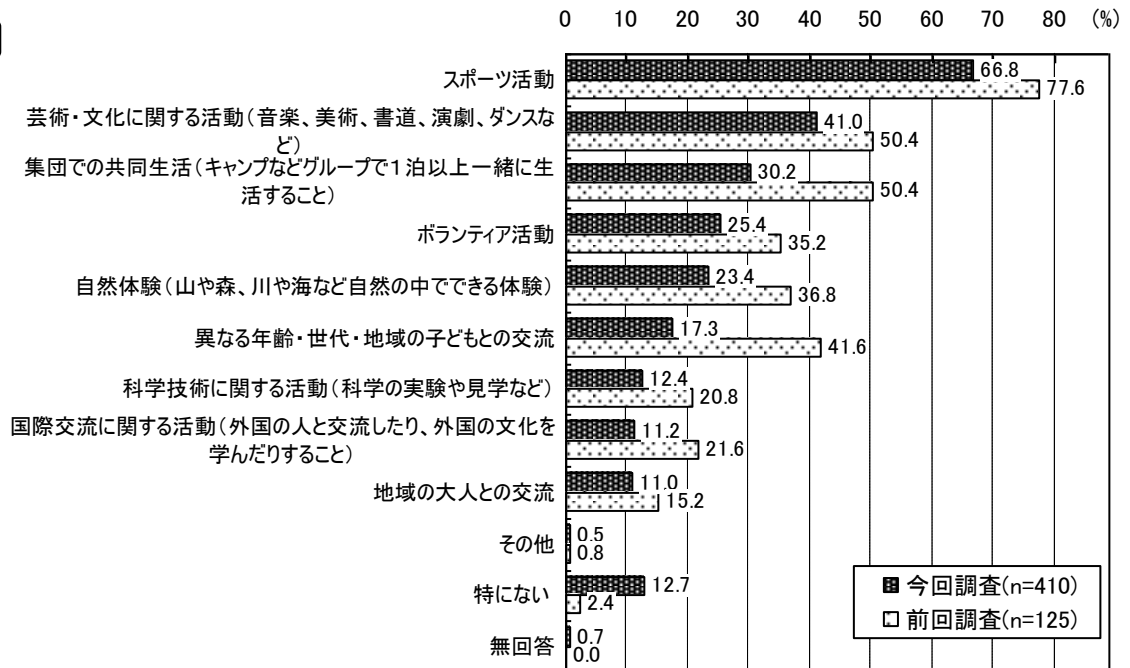
■どの年齢も体験したことがある活動としてスポーツが最も割合が高いが、全体的に前回調査と比べ活動体験割合が減少

- 小学5年生・中学2年生ともにスポーツ活動が最も高くなっています。
- 中学2年生は小学5年生に比べてボランティア活動が高くなっています。
- 前回調査と比べて、概ねすべての活動の割合が低下しています。

小学生



中学生



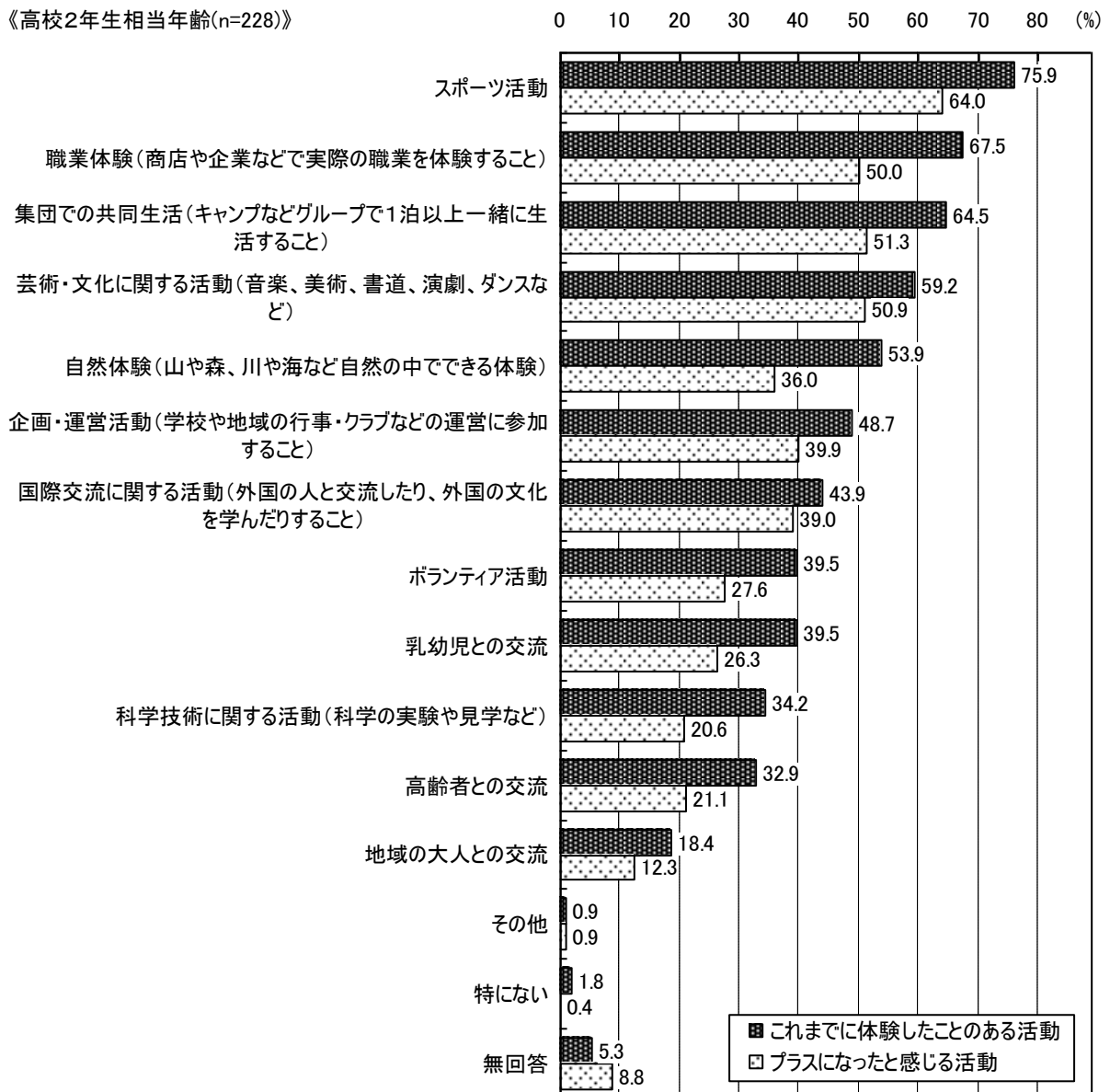
自分の行動や考え方にプラスになったと感じる活動

■スポーツ活動や職業体験、集団での共同生活の体験がプラスになったと感じている

○体験したことのある活動としては、スポーツ活動という回答が最も高く、次いで職業体験、集団での共同生活となっています。

○すべての項目において、体験した人の半数以上がプラスになったと感じています。特に、国際交流に関する活動は体験した人のうちプラスになったと感じる割合が高くなっています。

《高校2年生相当年齢(n=228)》





③自分の思いや考えについて

自分にあてはまること

■年齢が上がるとともに自己肯定感、自己効力感が低下

○年齢が上がるにつれ、自己肯定感・自己効力感に関する項目についてあてはまるという回答が減少する傾向がみられます。

○コミュニケーション力については、年齢による差はあまりみられません。

		小学5年生			中学2年生			高校2年生相当		
		あてはまる	どちらともいえない	あてはまらない	あてはまる	どちらともいえない	あてはまらない	あてはまる	どちらともいえない	あてはまらない
単位：%										
自己肯定感	自分のことが好きだ	60.1	27.9	11.4	54.6	32.0	12.9	47.4	34.6	14.5
	自分は人から必要とされている	57.6	32.4	9.2	53.7	37.6	8.3	46.0	37.3	13.1
コミュニケーション力	自分の考えや意見を人前で話すことができる	67.0	13.6	17.8	65.6	18.3	15.6	60.1	17.5	18.4
	自分の意見と違ってわかり合おうとしている	77.4	15.8	5.8	72.5	19.3	7.6	71.5	16.7	7.4
自己効力感	困ったときでもあきらめずにがんばることができる	76.8	15.2	7.4	68.8	21.0	9.8	65.4	18.4	12.7
	自分が必要とする情報を集め、うまくまとめることができる	55.4	24.1	19.4	57.0	25.6	16.8	55.2	26.3	14.4
	失敗を恐れず挑戦することができる	61.4	21.0	16.8	55.1	28.3	15.8	49.2	25.4	21.5

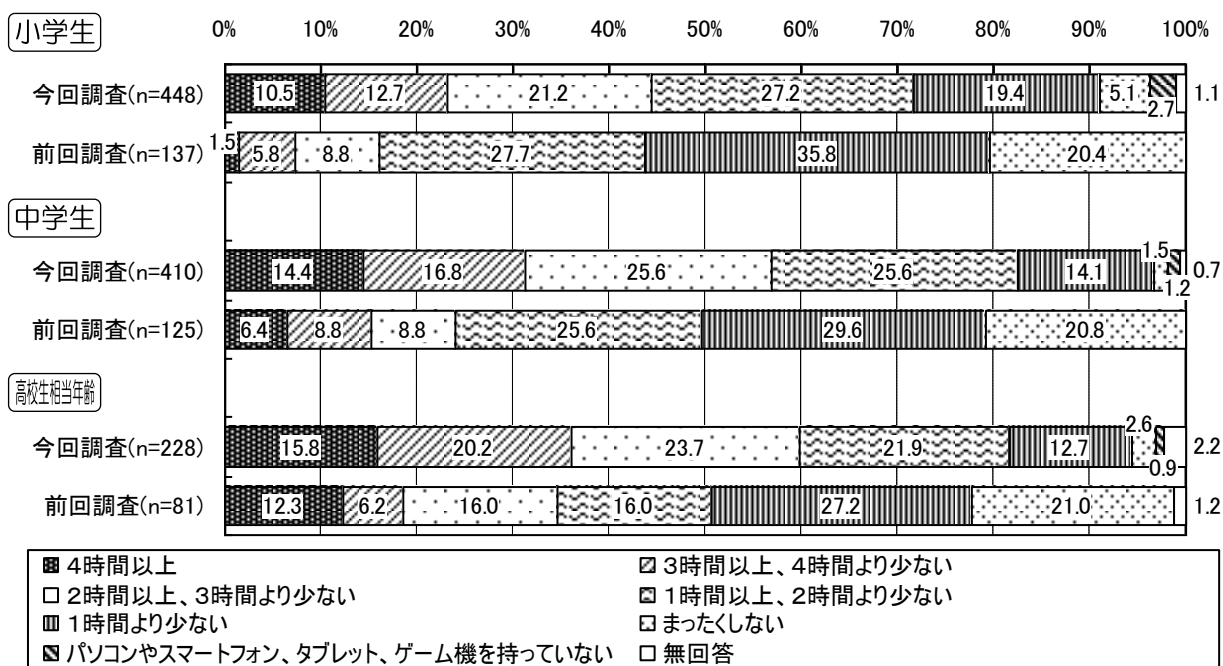
2章 子どもや子育て家庭の状況

④情報メディアの利用とコミュニケーションについて

1日のゲームや動画視聴の状況について

■すべての年齢でゲームや動画を見る時間が長時間化

- 小学5年生・中学2年生・高校2年生相当年齢すべての年齢で前回調査に比べて、1時間より少ないという回答が大きく減少し、2時間以上4時間未満の回答が大きく増加しています。
- すべての年齢で約50%が1日2時間以上ゲームや動画を視聴していると回答しています。

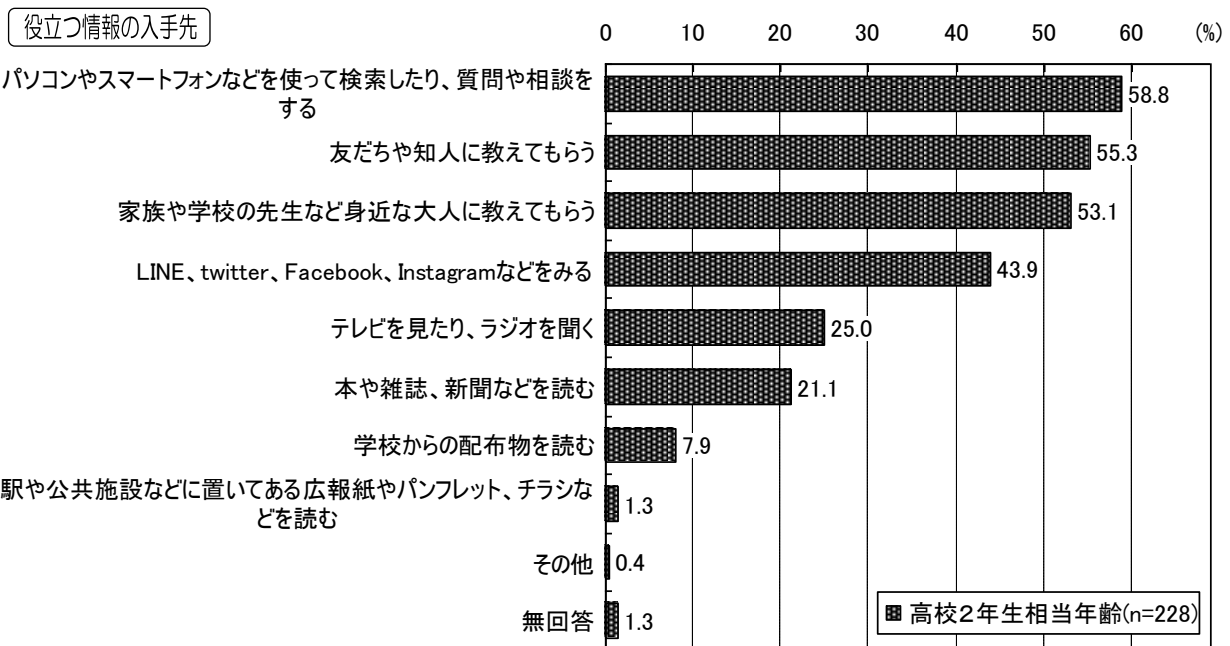
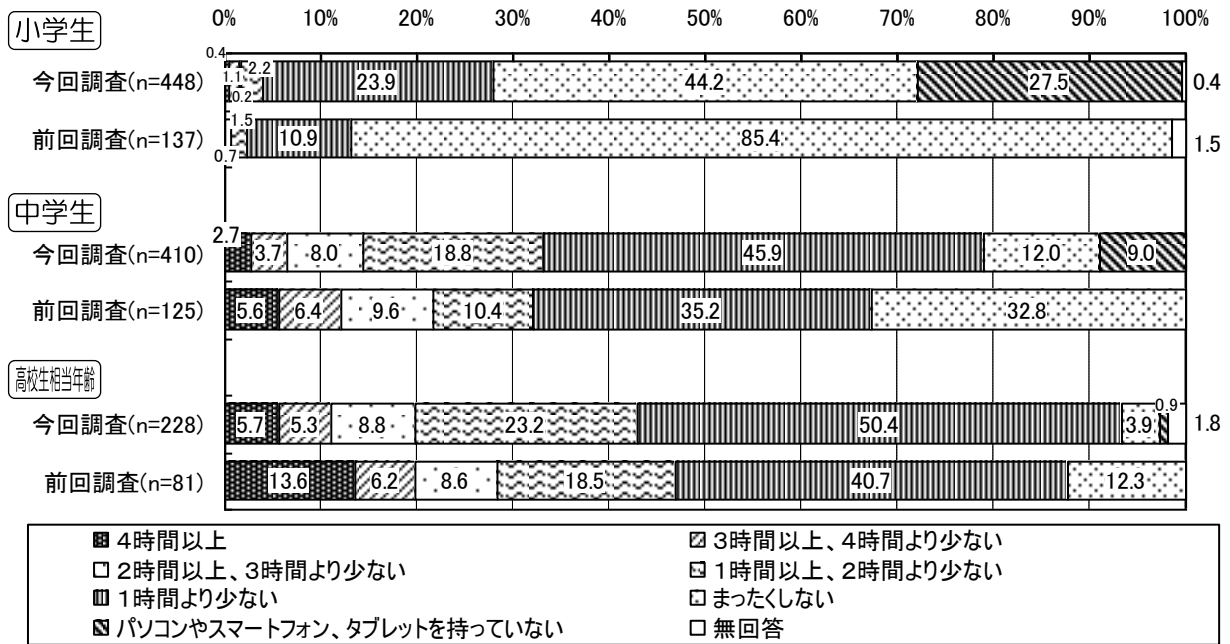




1日のメールやSNS*によるコミュニケーションの状況について

■ SNSによるコミュニケーションが一般的に

- 小学5年生・中学2年生・高校2年生相当年齢すべての年齢で前回調査に比べて、まったくしないという回答が大きく減少しています。また、中学2年生・高校2年生相当年齢では3時間以上の利用が減少する一方、まったくしないも減少し、2時間未満での利用が大きく増加しています。
- 役立つ情報の入手先については、身近な人の他、インターネットやSNSに関する回答が高くなっています。



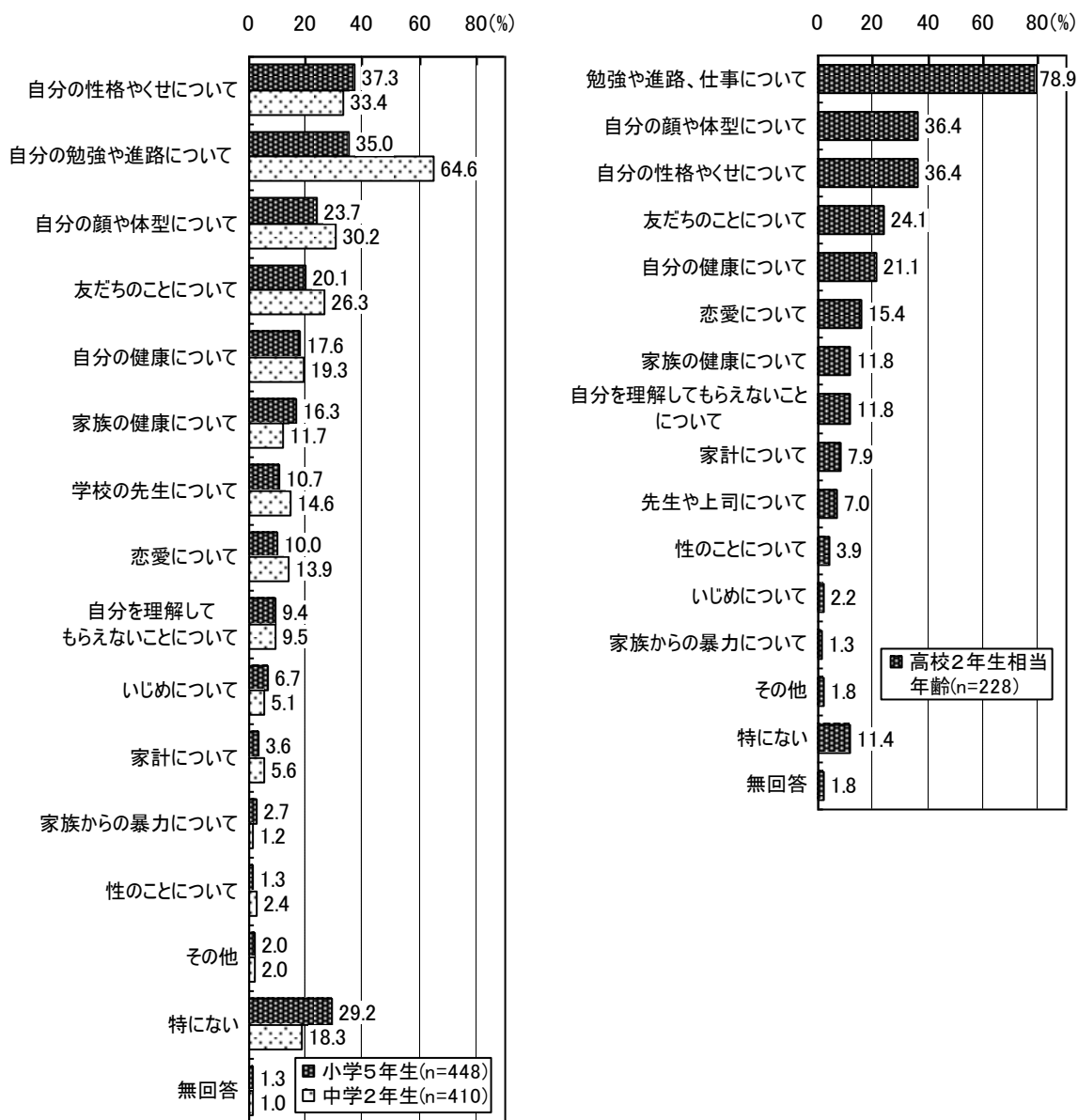
★は資料編「6 用語集」をご覧ください

⑤不安や悩み、将来について

不安や悩み、困っていることについて

■年齢が上がるにつれて勉強や進路の悩みが増え、また、自身のことへの悩みが多い

- 小学5年生では自分の性格やくせについてが最も高くなっていますが、中学2年生では勉強や進路についてという回答が高くなり、高校2年生相当年齢ではさらに増加しています。
- 中学2年生では自分の顔や体型、友だちのこと、学校の先生についてなどが小学生と比べて高くなっています。

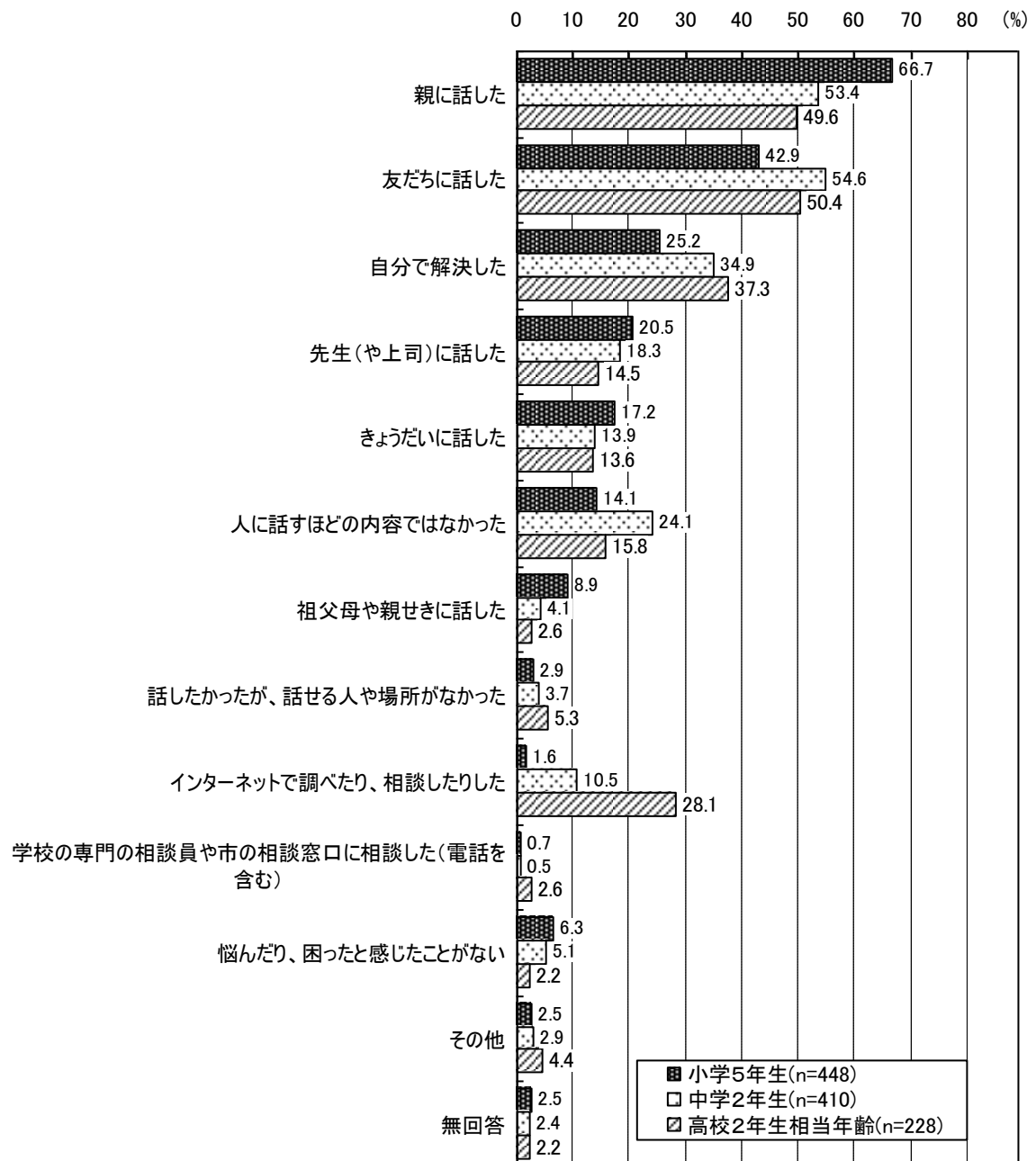




不安や悩み、困ったときの対応について

■年齢が上がるにつれて相談先が親から友人へ変わる傾向

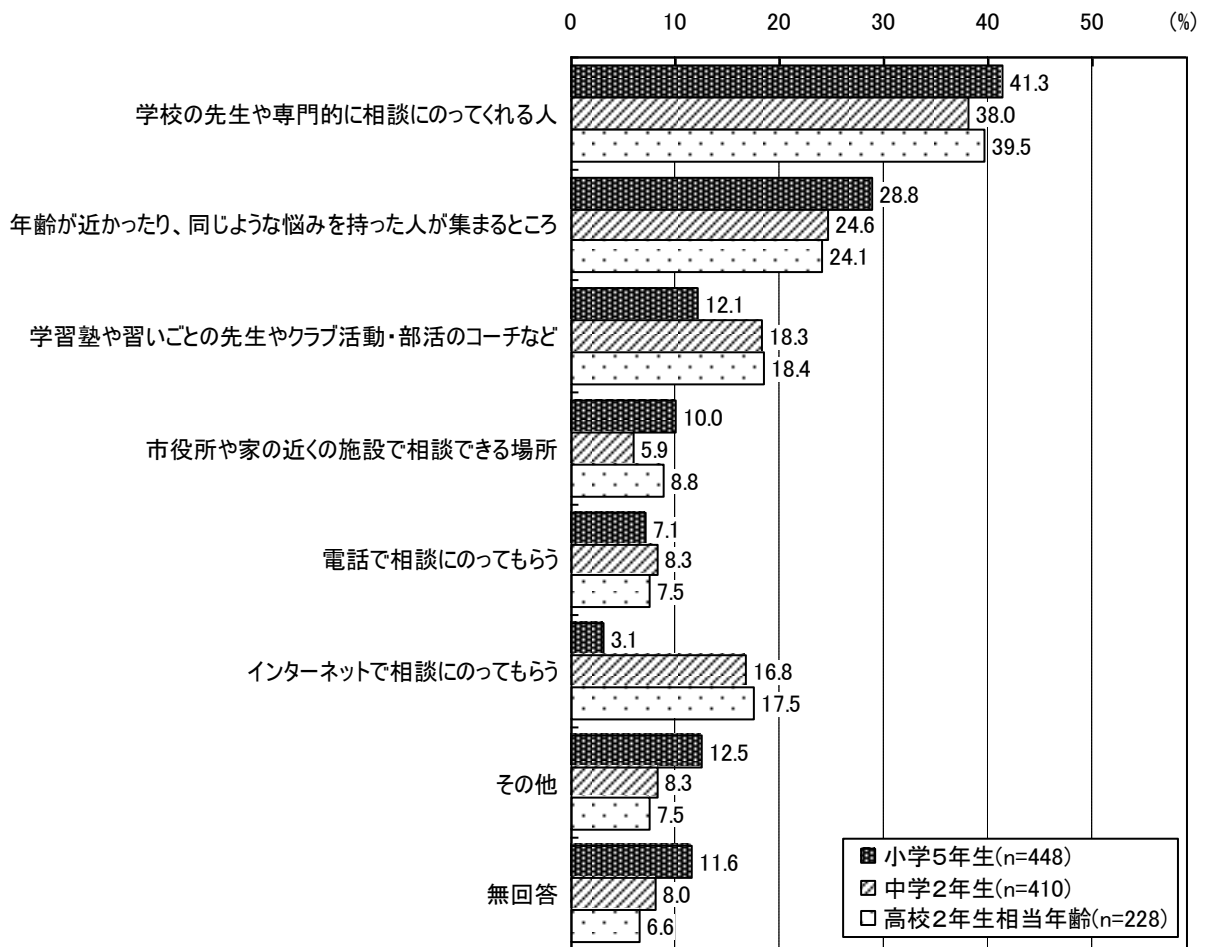
- 小学5年生・中学2年生・高校2年生相当年齢すべての年齢で親に話したという回答が高くなっていますが、年齢が上がるにつれて減少し、友だちに話したり自分で解決したという回答が増加しています。
- 高校2年生相当年齢ではインターネットで調べたり、相談したという回答が多くなっています。



身近な人に話ができない場合の相談先について

■専門性や共感を得られる相談先を選ぶ傾向

- 小学5年生・中学2年生・高校2年生相当年齢すべての年齢で学校の先生や専門的に相談にのってくれる人が最も高くなっています。
- 中学2年生・高校2年生相当年齢では小学5年生に比べてインターネットで相談にのってもらおうという回答が大きく増加しています。

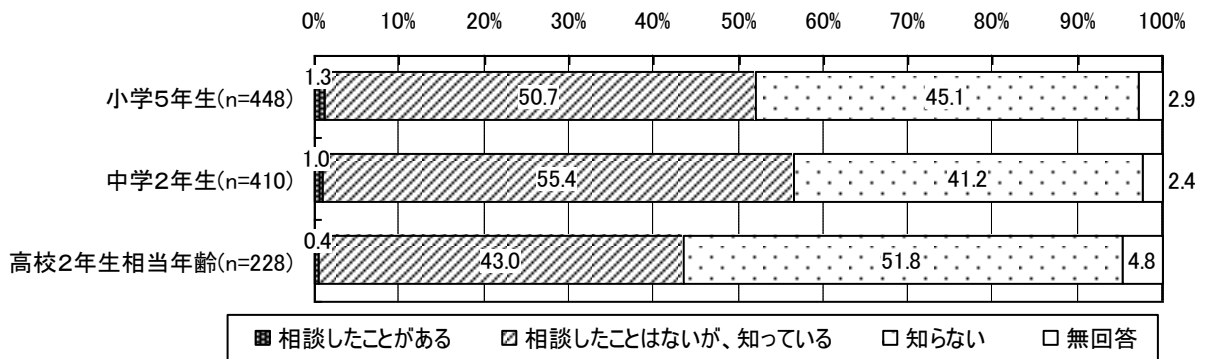




豊中市こども総合相談窓口について

■約5割の子どもに周知されている

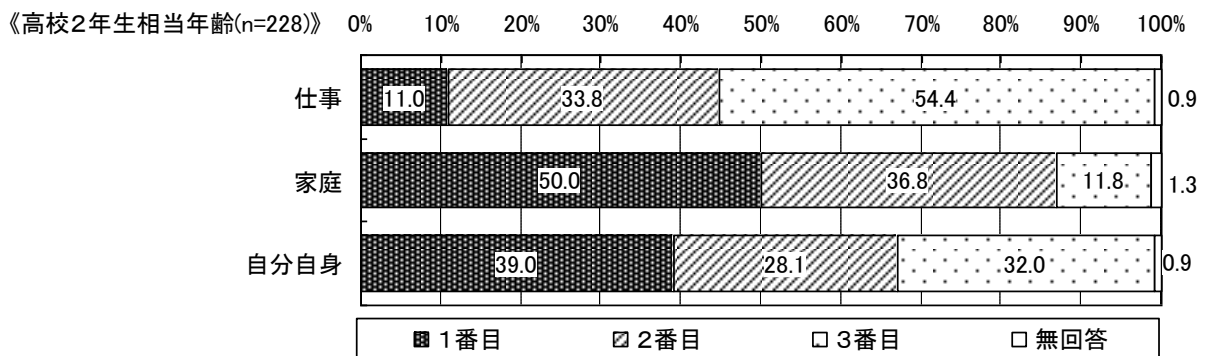
- 小学5年生・中学2年生・高校2年生相当年齢すべての年齢で相談経験があるという回答は約1%となっています。
- 小学5年生・中学2年生の半数以上が「豊中市こども総合相談窓口」について知っているという回答をしています。



将来大切にしたいと思う順番について

■家庭と自分自身を重視する傾向

- 「仕事」、「家庭」、「自分自身（学習・趣味・付き合い等）」について、将来大切にしたい順番では、家庭や自分自身が1番目という回答が多くなっています。



3 ひとり親家庭等の自立に関する意識

児童扶養手当を受給するひとり親家庭をめぐる様々な状況を把握するための調査を行いました。

令和元年(2019年)8月に児童扶養手当受給者を対象として実施した「ひとり親家庭の自立促進のための計画策定に向けたアンケート調査」から、ひとり親家庭等の意識や状況等について示します。

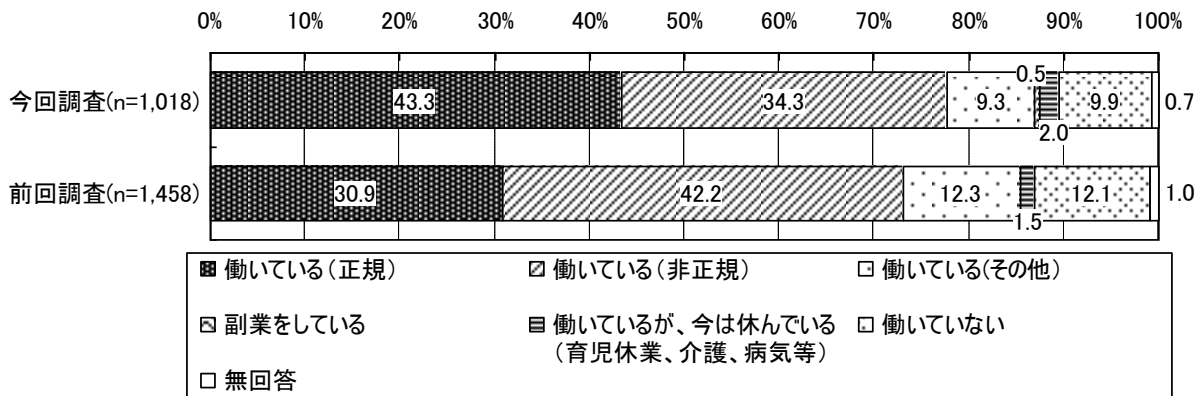
(1) 就労について

就労状況

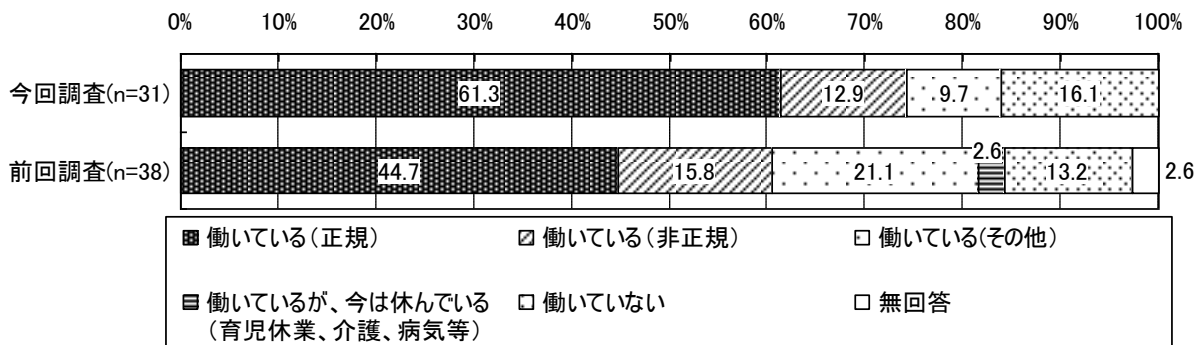
■正規雇用の割合が増加

○平成26年度(2014年度)に実施した前回調査と比較すると、母子・父子家庭ともに正規職の割合が高まり、非正規職の割合が低下しています。

◆母子家庭の母の就労状況



◆父子家庭の父の就労状況





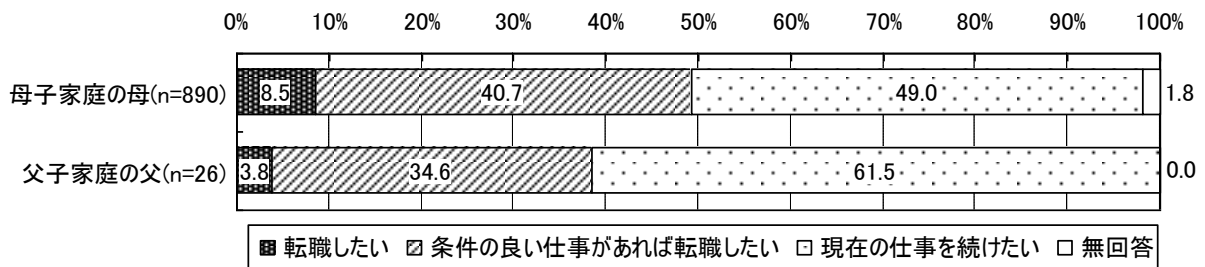
転職の希望

■転職を希望する理由は「収入がよくない」からが最も高い

○母子家庭の母の49.2%、父子家庭の父の38.4%が現在の仕事からの転職を希望しています。

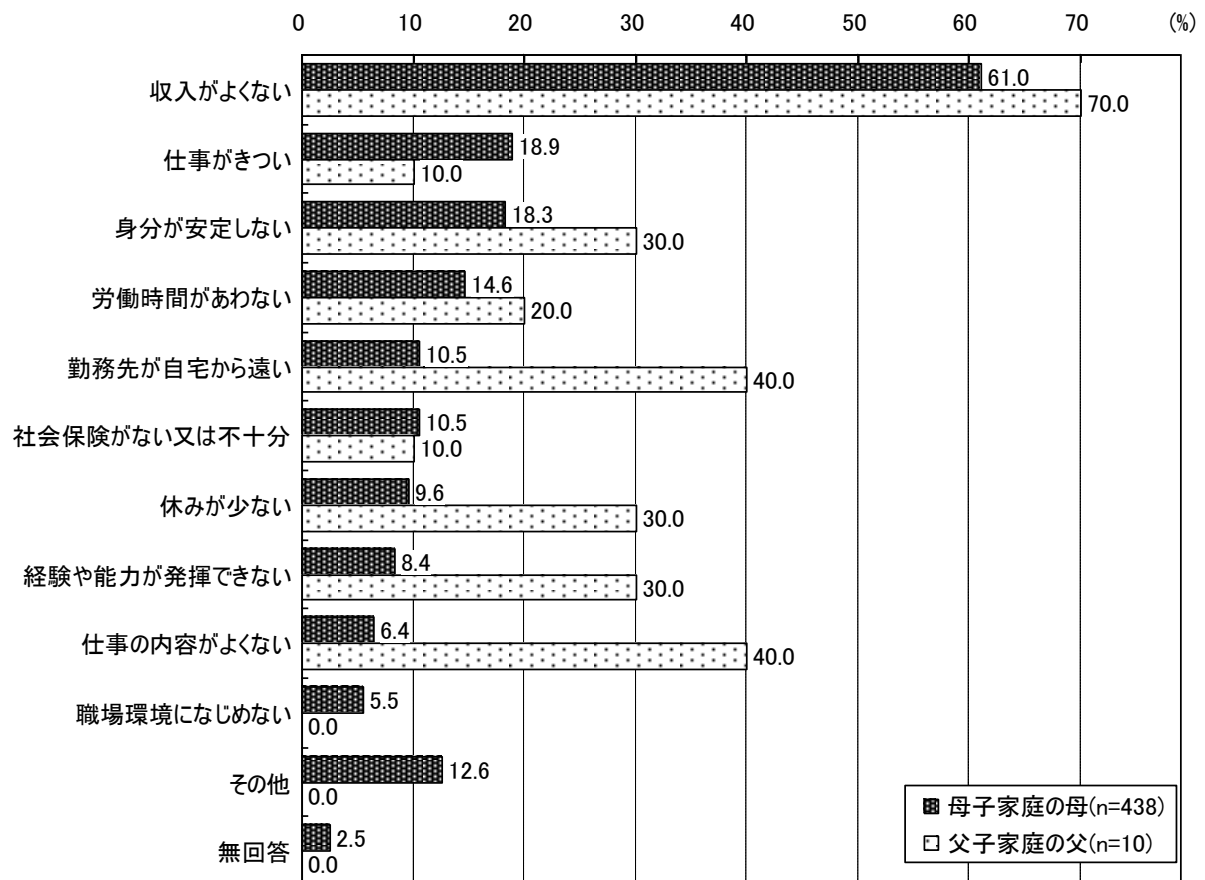
○母子家庭の母について転職を希望する理由をみると、収入がよくないという回答が61.0%となっています。

◆転職の希望の有無



※働いている人に限定

◆転職を希望する理由

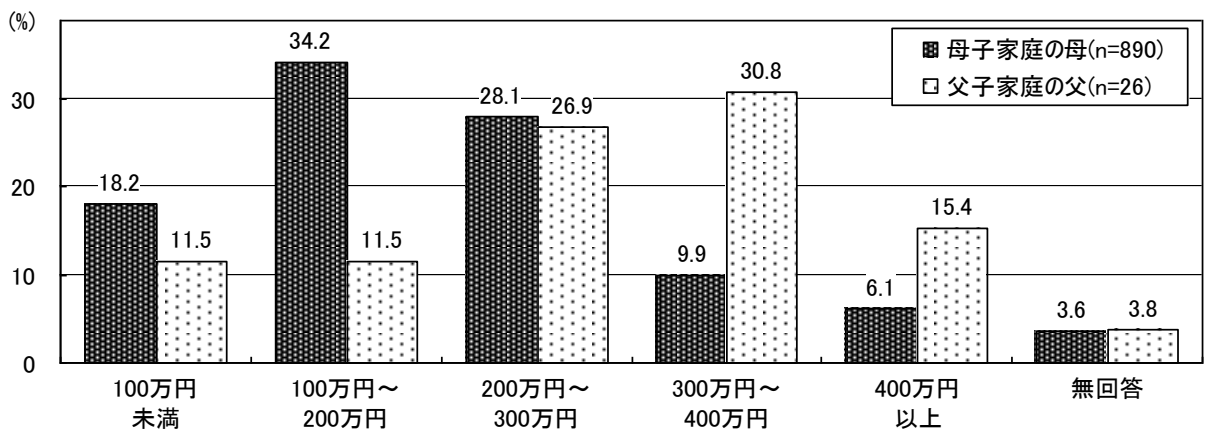


就労収入と希望する支援策

■母子家庭の就労収入が低い傾向

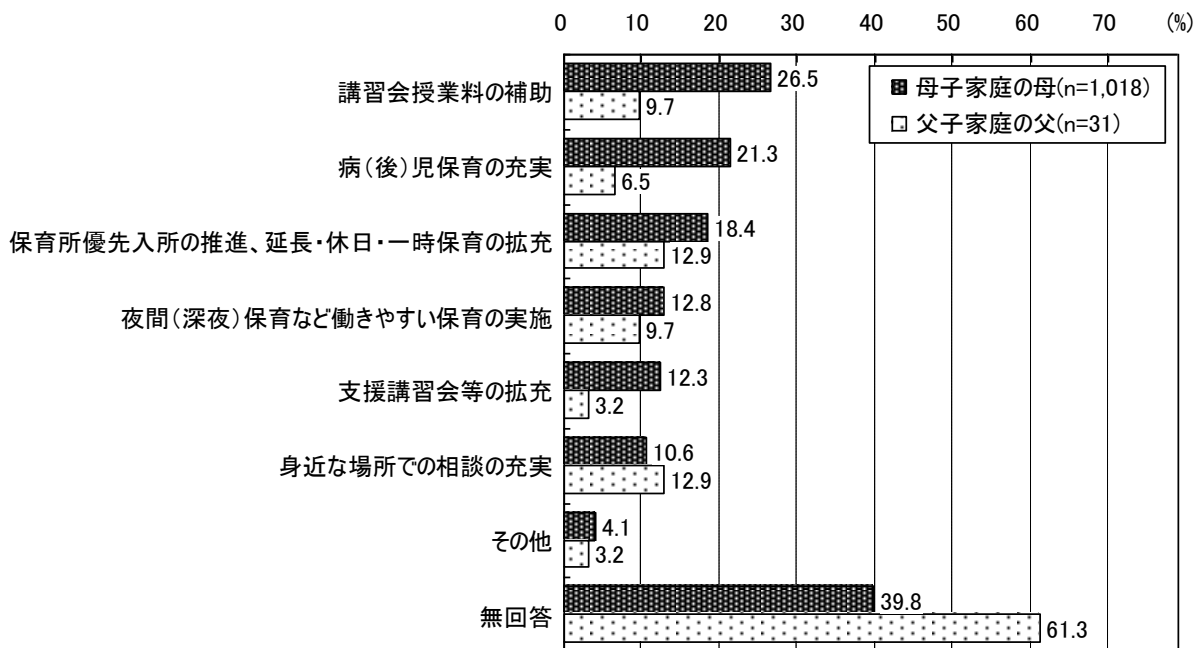
- 就労収入については、父子家庭が300～400万円の割合が最も高いのに対して、母子家庭では100～200万円の割合が最も高くなっています。
- 就労等に関して希望する施策としては、講習会授業料の補助、病（後）児保育の充実、保育所優先入所の推進、延長・休日・一時保育の拡充の回答が高くなっています。

◆平成30年度(2018年度)の年間就労総収入（税込）



※働いている人に限定

◆就労等に関して希望する施策





(2) 養育費について

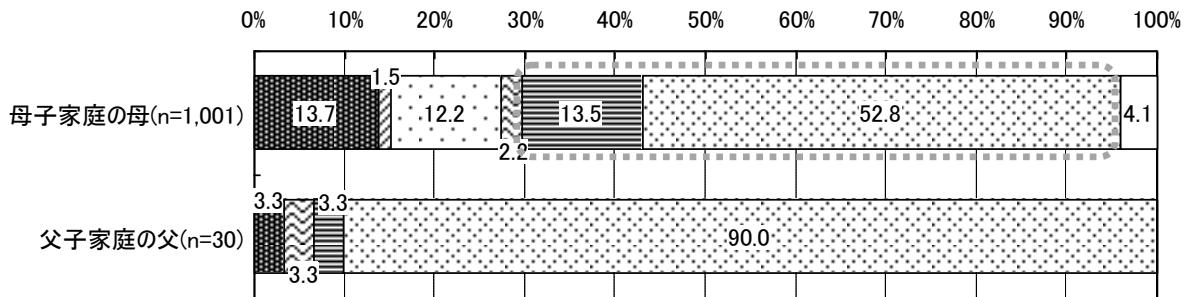
養育費の取決めの有無

■半数以上が養育費の取決めがない

○養育費の取決めが「口約束」または「ない」という回答は、母子家庭で66.3%と
なっています。

○養育費の取決めがない理由では、相手と関わりたくなかった、相手に支払う能力・
意思がないと思ったという回答が高くなっています。

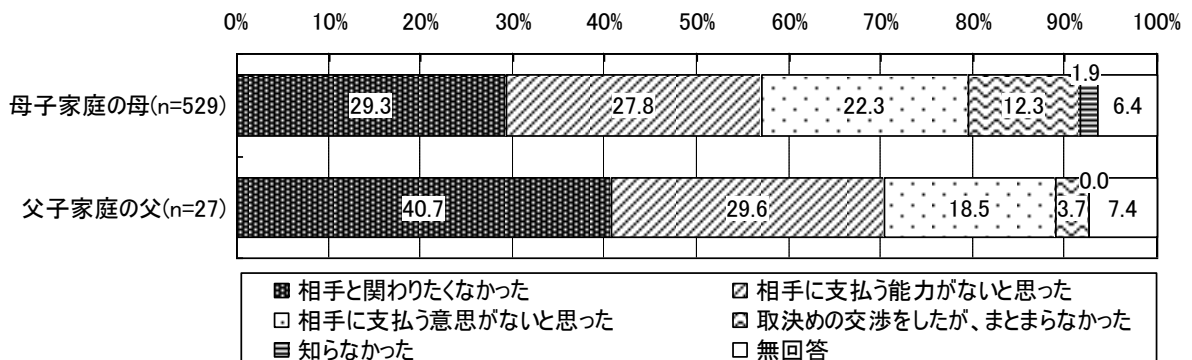
◆養育費の取決めの有無



■ ある(調停) ▨ ある(審判) □ ある(公正証書) ▩ ある(離婚協議書) ▤ ある(口約束) □ ない □ 無回答

※ひとり親家庭となった理由が死別または無回答の人を除く

◆養育費の取決めがない理由

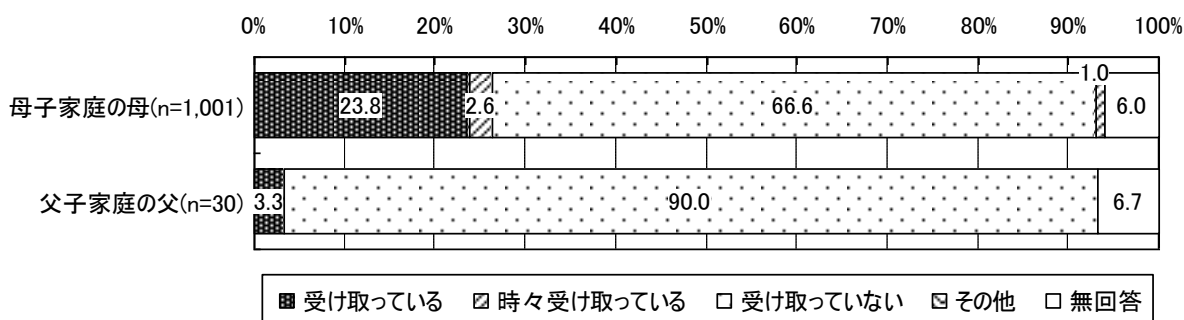


養育費を受け取っているか

■半数以上が養育費を受け取っていない

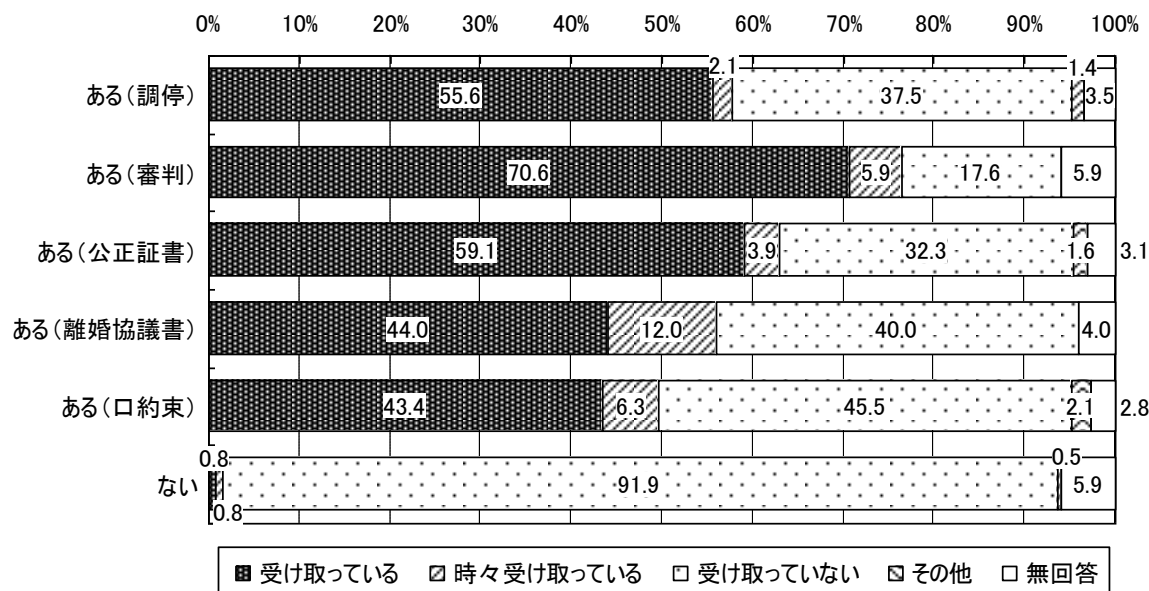
- 養育費を受け取っていないという回答は、母子家庭の母が66.6%、父子家庭の父が90.0%となっています。
- 母子家庭の母について、養育費の取決めの有無と受け取り状況の関係をみると、審判や公正証書、調停で取決めを行っている人で50%以上が養育費を受け取っています。

◆養育費の受け取り状況



※ひとり親家庭となった理由が死別または無回答の人を除く

◆養育費の取決めの有無と受け取り状況（母子家庭の母）





(3) 悩みごとと相談相手について

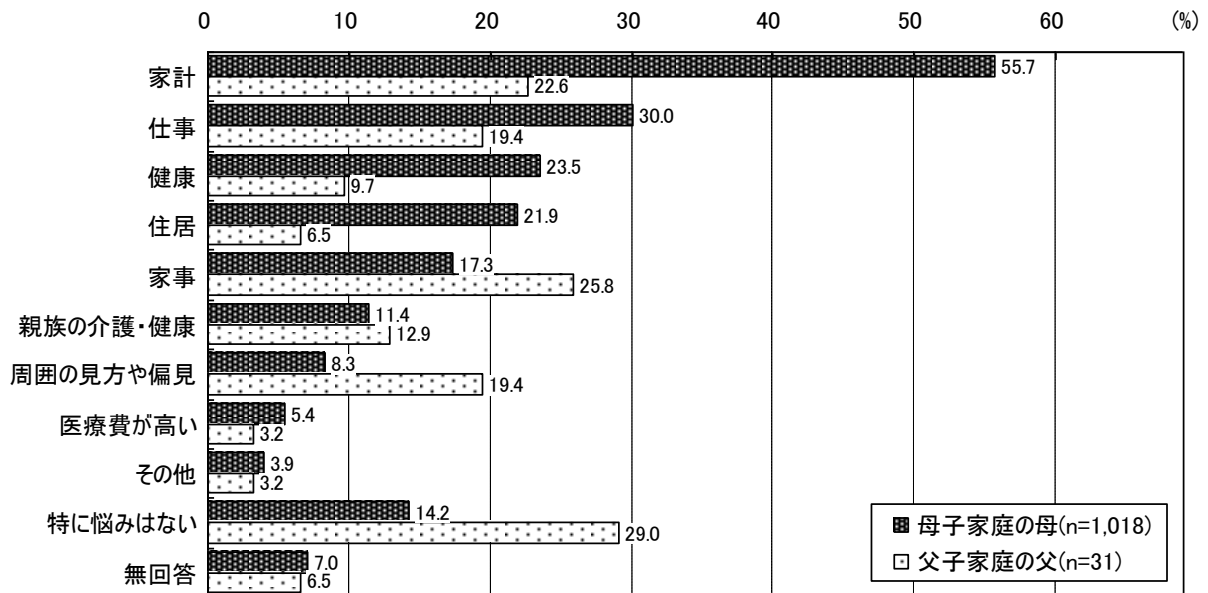
日頃の悩みごと

■母子・父子家庭に共通する悩みごとは子どもの教育・進学と教育費で、母子家庭は家計や仕事、父子家庭は特に悩みはないという回答が高くなっている

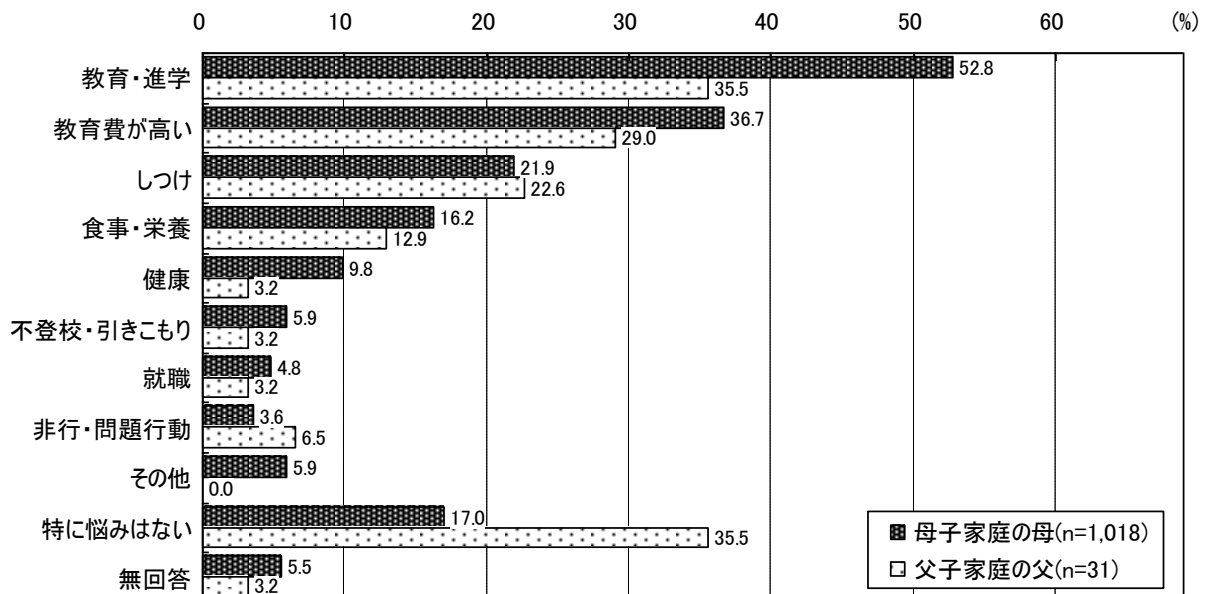
○母子家庭では、家計や仕事、子どもの教育・進学、教育費が高いことについての回答が高くなっています。

○父子家庭では、特に悩みはないという回答が最も高く、また、母子家庭に比べて家事、周囲の見方や偏見の回答が高くなっています。

◆回答者自身についての悩みごと



◆子どもについての悩みごと



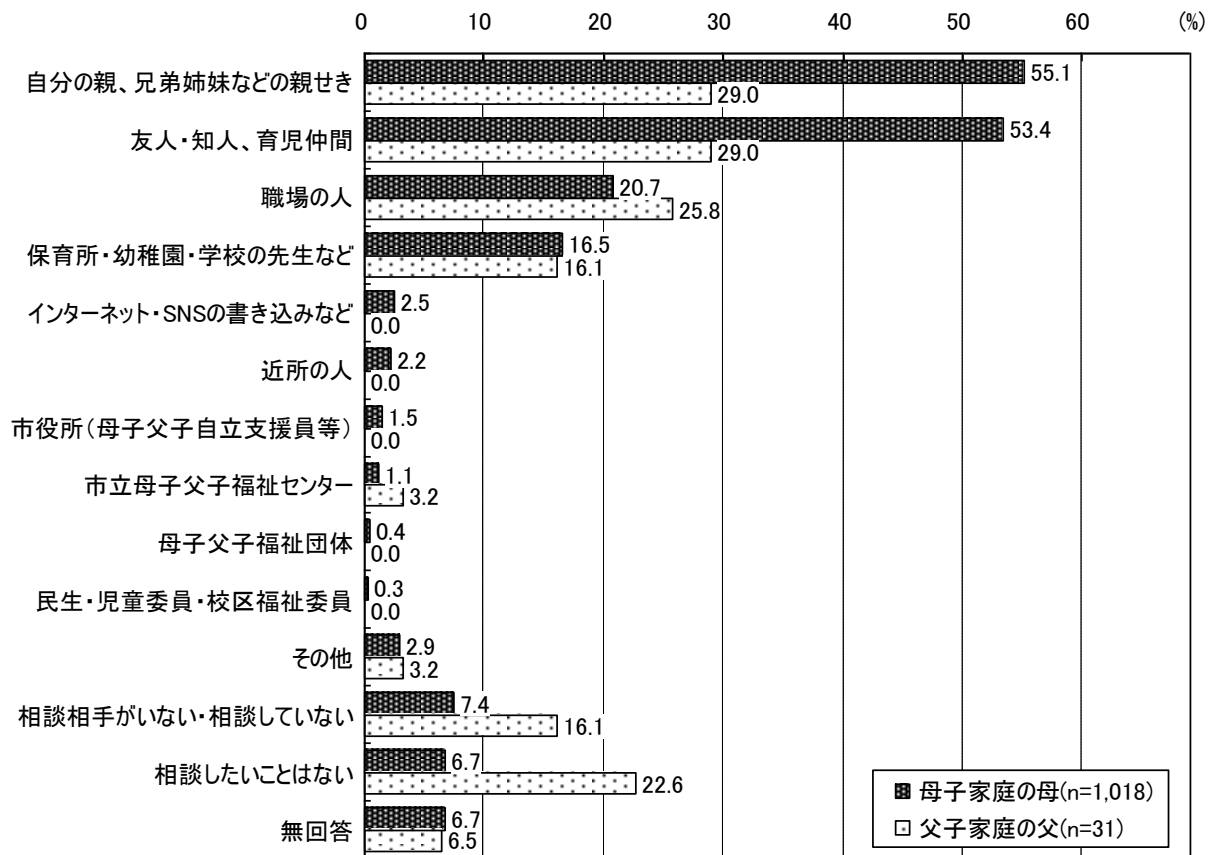
悩みごとの相談相手

■相談相手は親戚、友人、職場の人、先生の順

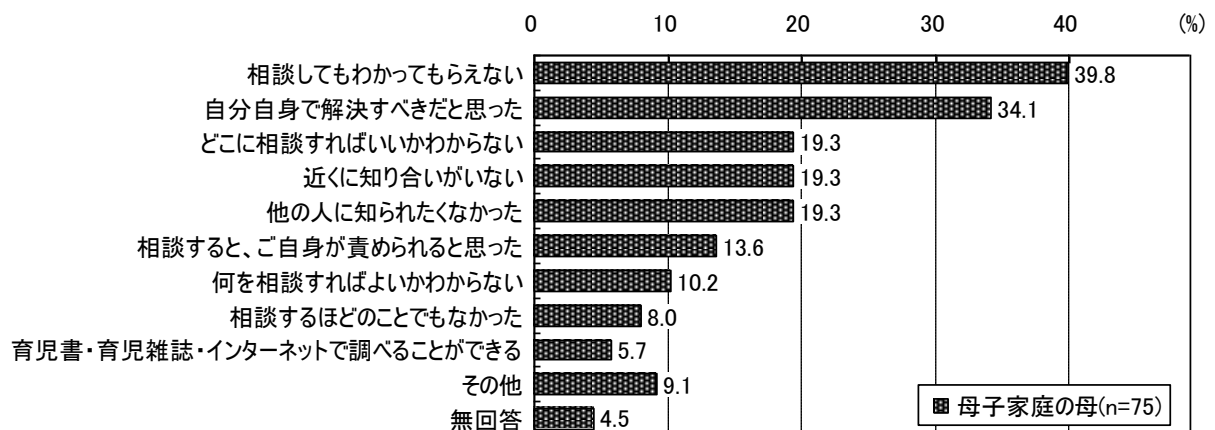
○母子家庭では、親せき、友人・知人の回答が50%以上で、次いで職場の人、先生の順となっています。また、父子家庭では、相談相手がないという人が16.1%となっています。

○母子家庭のうち誰にも相談していない人の理由では、相談してもわかってもらえない、自分自身で解決すべきだと思ったという回答が高くなっています。

◆悩みごとがある際の相談相手



◆誰にも相談していない理由(母子家庭の母)





(4) 希望する支援策について

希望する支援策について

■子どもの手当や学習についての支援策のほか、父子家庭では相談体制の充実が求められている

- 母子家庭・父子家庭ともに子どもの手当や学習についての支援策の割合が高くなっています。
- その他、母子家庭では公営住宅の充実、父子家庭では気軽に相談できる場所や相談体制の充実について、割合が高くなっています。

